Print Server N01

Version 6.0

ユーザーガイド

導入編

はじめに

このたびは、Print Server N01をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

Print Serverは、Adobe® PostScript®を使用して、高品質のカラープリントを実現するためのプリントサーバーです。

本書は、お使いのOS環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に、Print Serverのクライアントソフトウエアをはじめて使用するかたから、サーバーを管理するかたまでを対象に、Print Serverの基本的な設定や操作方法、ネットワークの設定、およびクライアントソフトウエアのインストール方法などを記載しています。

Print Serverの性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、Print Serverをご使用になる前に、本書を必ずお読みのうえ、正しくご利用ください。また、カラープリンターの機能や操作については、お使いのカラープリンターに付属のマニュアルをお読みください。なお、弊社の保証範囲は、本製品の標準構成とそのオプション商品に限ります。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が生じたときに、読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

Contents

マニュアル体系

Print Serverには、以下のマニュアルが用意されています。使用目的に合わせてご利用ください。

●ユーザーズガイド導入編　<本書>

Print Server を導入するうえでの設定や操作方法について説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「Manual_Introduction.pdf」です。

●ユーザーズガイド運用編

Print Serverのプリント機能、色の調整の仕方、プロファイルの割り当てやツールの操作方法について説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDF で格納されています。ファイル名は、「Manual_Operation.pdf」です。

●ユーザーズガイドセットアップ編

Print Serverを安全にご利用いただくために、本機を使用する前に知っておいていただきたいことについて説明しています。Print Serverの商品パッケージに同梱されているハードウエアの接続方法、各部の名称、およびプリントサーバーとして使用するためのシステムのセットアップ方法について説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「Manual_Setup.pdf」です。

●キャリブレーションガイド

Print Server のキャリブレーションについて説明しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「Manual_Calibration.pdf」です。

●ライセンスについて

Print Server のライセンスについて記載しています。マニュアルは、DVD の「Document」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「Licence.pdf」です。

●セキュリティー対策に関する補足情報

Print Serverのセキュリティーに関する補足情報について説明しています。

●Version 6.0リリースについての追加補足情報

Print Serverの追加補足情報について説明しています。

●Color Profile Maker Pro操作説明書

Color Profile Maker Proの機能や操作方法について説明しています。マニュアルは、DVDの「CPMP」フォルダーに、PDFで格納されています。ファイル名は、「CPMP_Manual.pdf」です。

本書の使い方

本書は、Print Server やネットワークの設定、およびクライアントソフトウエアのインストール方法などを記載しています。

本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

■1 ネットワークとPrint Serverの設定（P.21）

Print Serverのネットワークの環境設定、およびServerManagerの環境設定について説明しています。

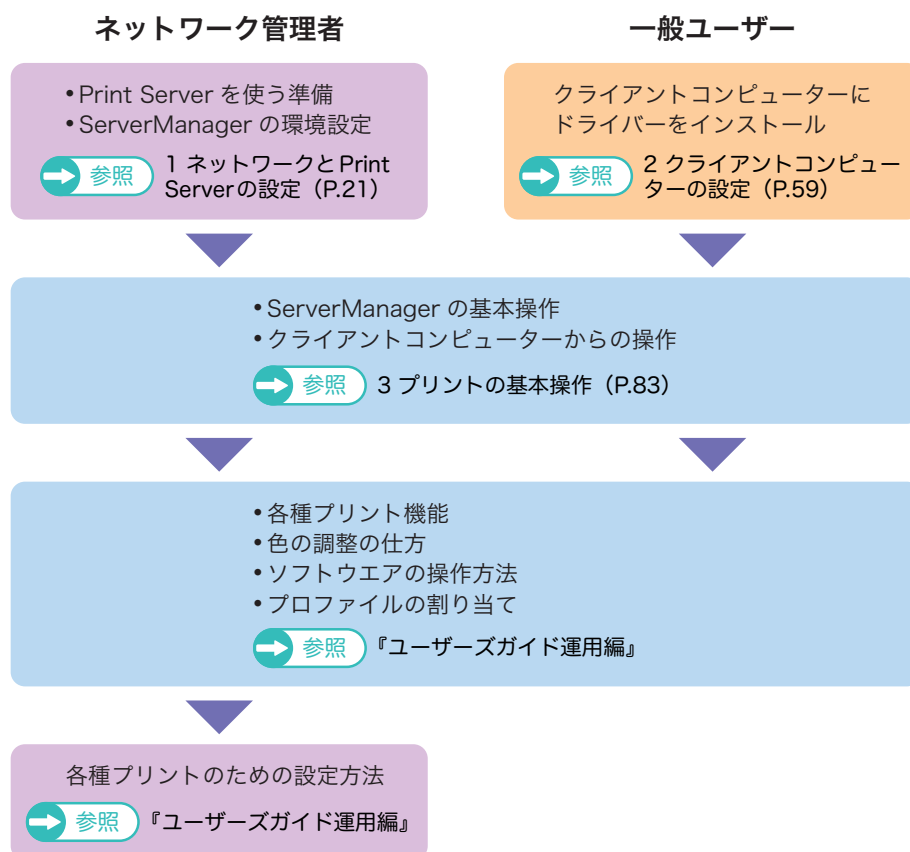
■2 クライアントコンピューターの設定（P.59）

プリンタードライバーなど、クライアントコンピューターが使うソフトウエアのインストール方法について説明しています。

■3 プリントの基本操作（P.83）

プリントの流れとPrint Serverの基本的な操作について説明しています。

ユーザー別の活用方法

ネットワーク管理者と一般ユーザーでは、活用方法が異なります。

本書の表記

本文中では、説明する内容によって、以下のマークを使用しています。

補足　補足事項を記載しています。

 参照先を記載しています。

本文中では、以下の記号を使用しています。

「　　」　フォルダー、ファイル、アプリケーション、CD/DVD、機能などの名称や入力文字などです。また、本書内にある参照先です。

『　　』　参照するマニュアルです。

[　　]　コンピューターのメニュー、コマンド、ウィンドウやダイアログボックスとそれらに表示されるタブ、ボタン、メニュー、項目などの名称です。

→　メニューの選択順序です。[XXX] → [XXX] のように記載しています。

＞　プリントオプションの表示順序です。[XXX] ＞ [XXX] のように記載しています。
プリントオプションについては、『ユーザーズガイド運用編』の「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」を参照してください。

〈　　〉　キーボードのキーです。

フォルダーを表します。

ファイルを表します。

本文中では、以下の文章表現を使用しています。

・「XXX」は任意の文字、「＊」は任意の数字です。

・OSがMac OS® Classic（8.＊、9.＊）とMac OS Xのクライアントコンピューターを「Macintoshクライアント」、OSがMicrosoft Windows＊＊のクライアントコンピューターを「Windowsクライアント」と記載しています。

・特に注釈がない限り、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー、K：ブラック、R：レッド、G：グリーン、B：ブルーと記載しています。

本書では、一部を除いてMicrosoft® Windows® 7の画面で説明しています。ご使用のOSによっては、メニューや項目などの名称が異なる場合があります。

本書では、一部を除いてデフォルトの画面で説明しています。説明のために、デフォルトでない画面を使用している場合は、補足で明記しています。

本書に記載されている画面や本機のイラストは一例です。お使いの機種やソフトウエア、OS のバージョンによって異なることがあります。

本書の内容は、本書の制作時点のものです。本書に記載されている画面やイラスト、お問い合わせ先の窓口、ホームページのアドレスなどは、将来予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

商標について

・Apple、AppleTalk、EtherTalk、Macintosh、Mac OS、Safari、およびTrueTypeは、米国、および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
・Adobe、Adobe Reader、FreeHand、PostScript、PostScript 3、およびPostScriptロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国、およびその他の国における登録商標、または商標です。
・Internet Explorer、Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国、およびその他の国における登録商標です。
・Intel、Pentiumは、アメリカ合衆国、およびその他の国におけるIntel Corporation、またはその子会社の登録商標です。
・Quark、QuarkXPressは、米国ならびに各国で登録されたQuark, Inc.とQuark関連会社の商標です。
・Netscapeは、米国Netscape Communications Corporationの米国、およびその他の国における登録商標です。
・Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国、およびその他の国における登録商標です。
・UNIXは、The Open Groupの米国、およびその他の国における登録商標です。
・IBMは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。
・接続するプリンターのソフトウエアには、the Independent JPEG Groupで作成されたコードの一部を利用しています。

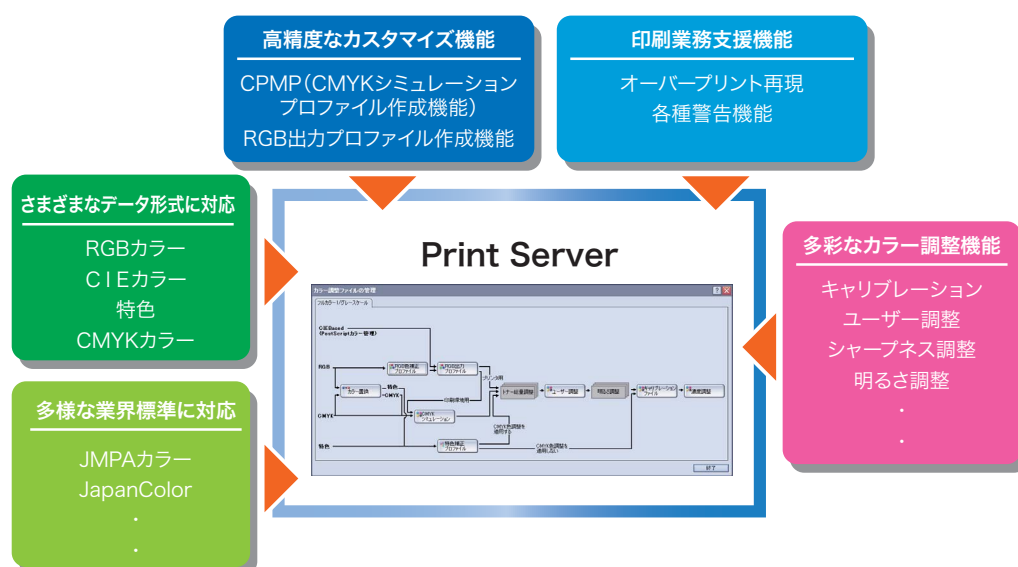
・その他の製品名、会社名は、各社の登録商標、または商標です。
・XEROX、およびそのロゴと“コネクティング・シンボル”のマークは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

Print Serverの機能紹介

色を管理し忠実に再現する

RGB、CIE、特色、CMYKなどのさまざまなデータ形式に対応しており、一般のオフィスワークで作成する提案資料のプリントから、カタログ、ポスターデザインなどのプロフェッショナルデザインワークで行われる校正プリントまで強力なCMS（Color Management System）でサポートします。

各種カラーワークフローで使用されるプロファイル作成や登録機能だけではなく、最終プリント直前での色の微調整（ユーザー調整カーブ）や簡易的な画質調整（明るさ調整、濃度調整、シャープネス調整）もできます。

プリンター自体の使用環境や使用期間に依存した色再現のずれを修正し、安定した色再現を実現させる高機能なキャリブレーションも用意されています。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「2 色の調整と管理」、「4.1.5 画質」を参照してください。

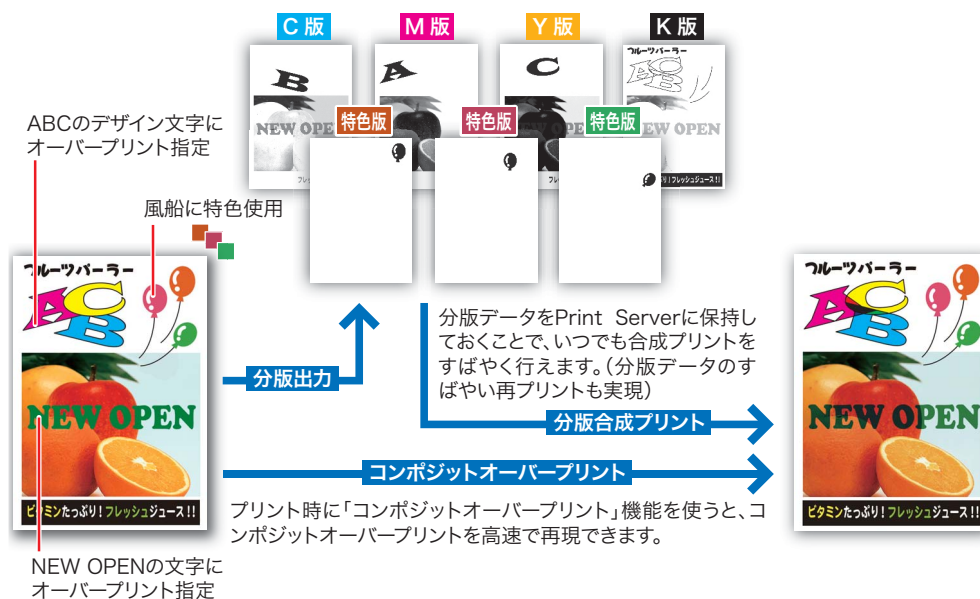
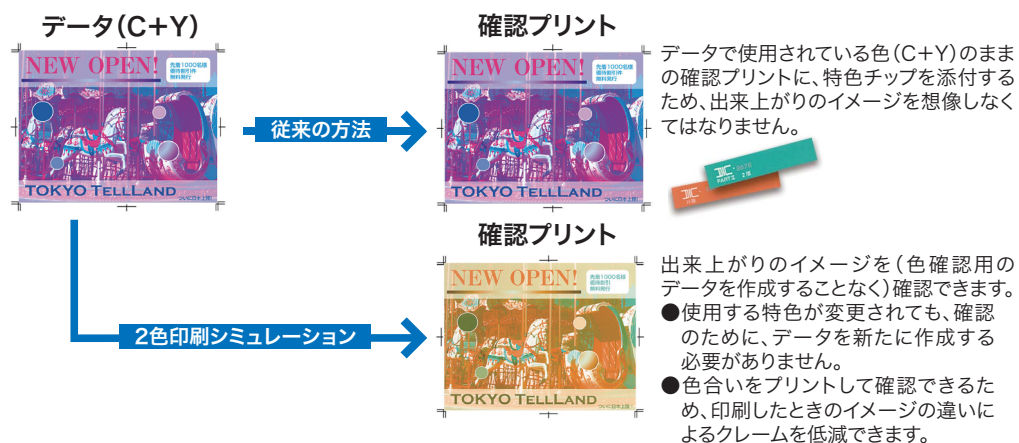
事前に印刷機での印刷状態を確認する

オフセット印刷の入稿前にはデザインやレイアウトのチェックが必要です。

印刷機での印刷用データである分版プリントのデータも色補正されたカラーでプリントできます。

分版プリントを使わない一般的なプリント方法（コンポジットプリント）でもコンポジットオーバープリント機能を使うと、オーバープリントが再現できるので、より効率的に印刷入稿前のチェックができます。

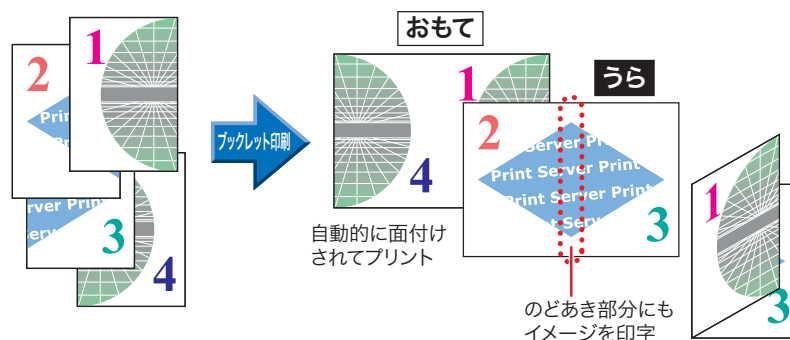
2 色印刷シミュレーション機能を使うと、Print Server で特色の置き換えを自動で行い、プリンターでの確認が困難だった2色印刷原稿の確認プリントも簡単にできます。

■色分版の合成

■2色印刷シミュレーション

参照 詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「1.1.1 分版出力の合成（色分版の合成）」、「1.1.2 2色印刷シミュレーション」、「4.1.5 画質」を参照してください。

さまざまなレイアウトを作成する

フォーム用のファイルに別のファイルを重ね合わせてプリントする差込印刷機能、自動で面付けと両面印刷を行い、手軽に企画書やパンフレットを中とじの冊子にすることができる小冊子作成機能、Print Serverに保存された別々のジョブを連結して、1つのジョブとしてプリントすることができるビルドジョブ機能などの多彩なプリント方法を備えています。

ビルドジョブでは、サムネール編集機能を使って、プレビューでページを確認しながらページ順の変更、削除、挿入をすることもできます。

■小冊子の作成

詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「1.2 さまざまな割り付け方法でプリントする」を参照してください。

印刷トラブルを防止する

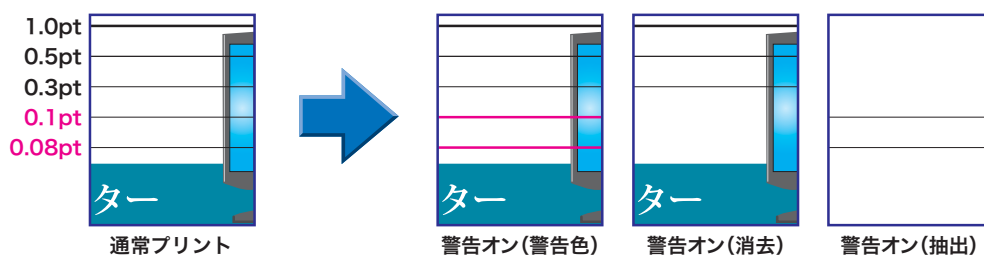
プリンターでプリントして確認するときには気付きにくく、印刷機での印刷時にトラブルになるような入稿データの問題がいろいろとあります。RGB警告、ヘアライン警告、オーバープリント警告、特色警告、インキ総量警告といった警告機能を使うことで、これらの問題をプリンターでのプリント時に紙面で確認できます。

プリントをせずにデータチェックを行うためには、プリフライト機能を使います。データ内で使用されている色空間、フォント、特色などをリストで確認できます。

■RGB警告

通常プリント　　警告オンでプリント

■ヘアライン警告

通常プリント　警告オン(警告色)　警告オン(消去)　警告オン(抽出)

詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「1.1.3 画像警告機能」、「1.1.4 プリフライト」を参照してください。

プリントデータの受け渡しやプリントの作業を効率化する

メールプリント機能を使って、ジョブをほかのPrint Serverに直接転送できます。

メールの送受信やネットワークへのアップロードはPrint Serverで一括管理できるので、校正作業のプロセスで赤入れ原稿をやり取りする場合、遠隔地へのカラーデータのやり取りにかかるコストの削減、時間の削減による効率化を実現できます。

DropUtilityでは、プリント設定を用途別にセットしてファイルとして保存でき、用途に合った設定ファイルにデータをドラッグ＆ドロップするだけでプリントできます。毎回ファイルを開いてプリント設定をする必要がないため、設定ミスや設定の手間がなくなり、プリント作業を効率化できます。

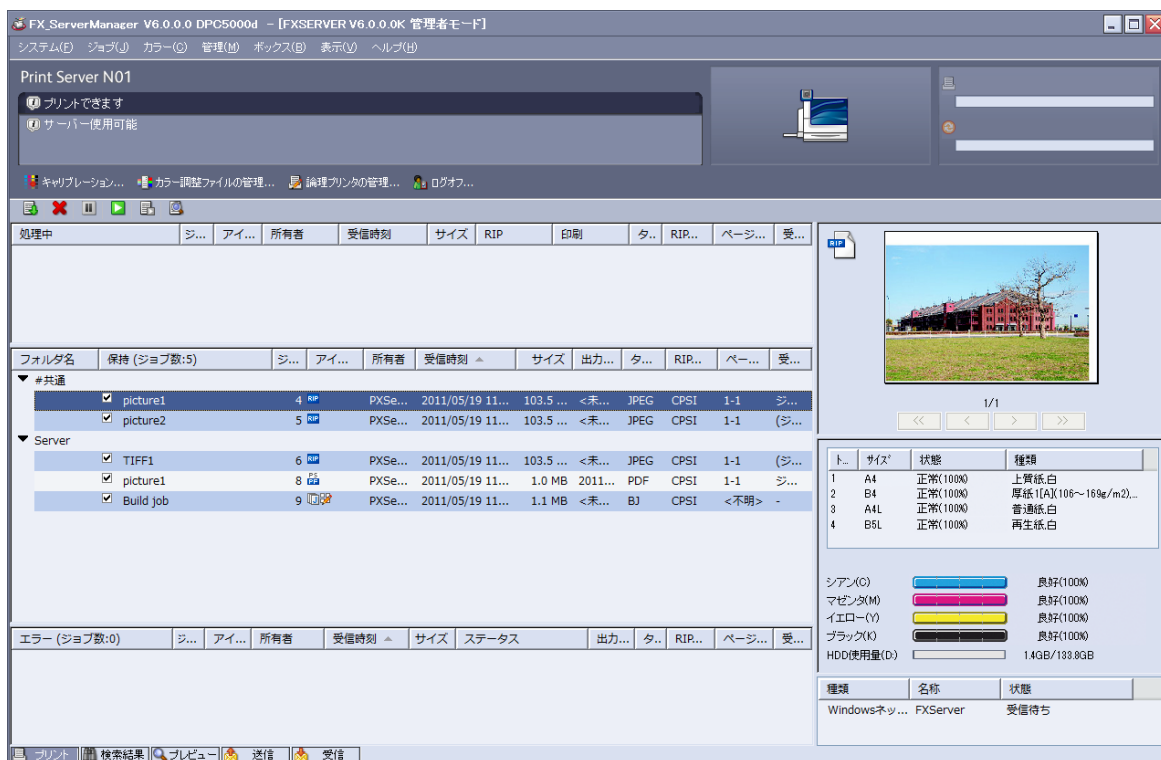
■ DropUtility

参照　詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「3.5 ファイルを送受信する、転送する」、「5.1 DropUtilityについて」を参照してください。

プリンターやジョブの管理を行う

Print Serverにはプリンターやジョブを管理するためのソフトウエアが用意されています。
ソフトウエアを活用することでプリンターの消耗品の確認や、ジョブの管理、設定変更、情報の参照などができます。

■ServerManager

ServerManagerは、プリンターやジョブの管理、設定変更を行います。
エラーが発生したジョブやスプールされているジョブがわかりやすく表示されます。
ServerManagerはPrint Serverだけでなく、クライアントコンピューター（Windows）にインストールして使うこともできます。

詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「3.1 ServerManagerについて」を参照してください。

■WebManager

Print ServerとTCP/IP接続されたクライアントコンピューターのWebブラウザーではWebManagerが使えます。

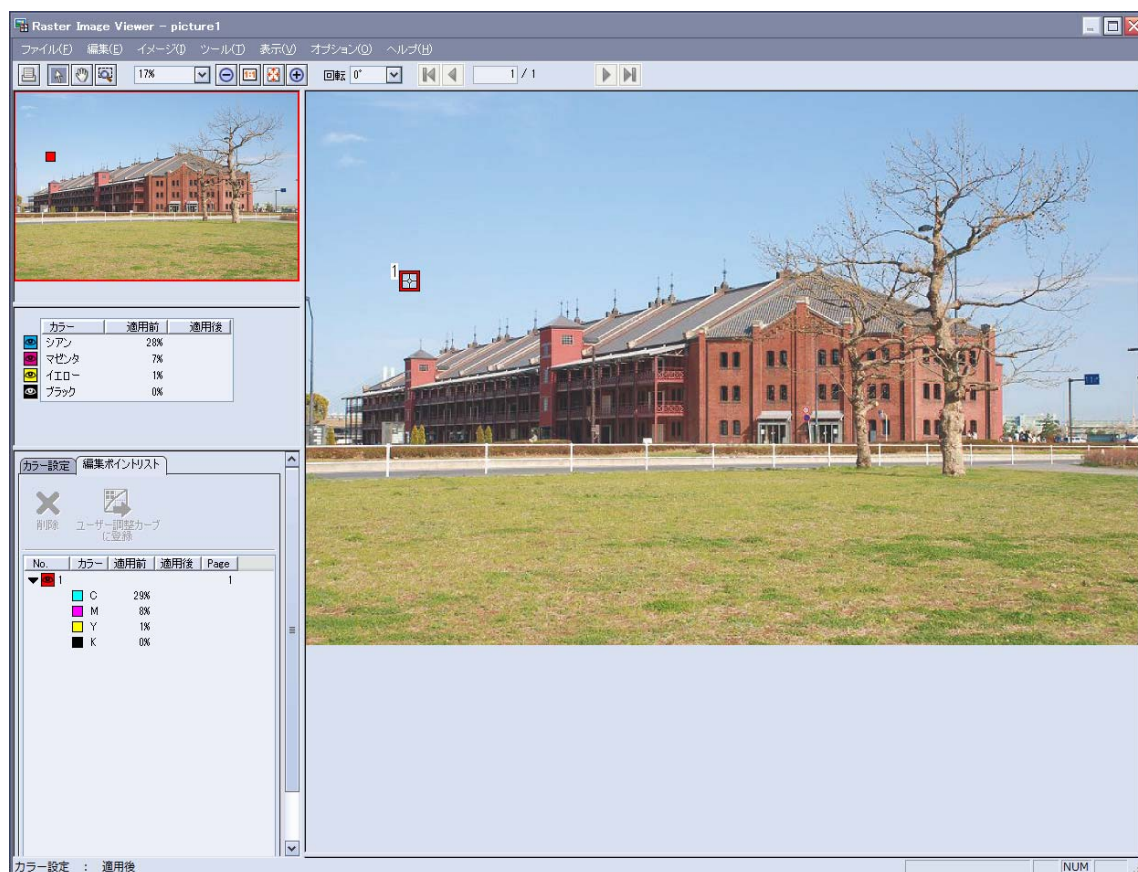
このソフトウエアでは、Web経由でジョブの設定変更やプリント指示、各種プロファイルの確認ができます。

Webブラウザーを使用するため、クライアントコンピューターに専用のアプリケーションをインストールする必要がありません。

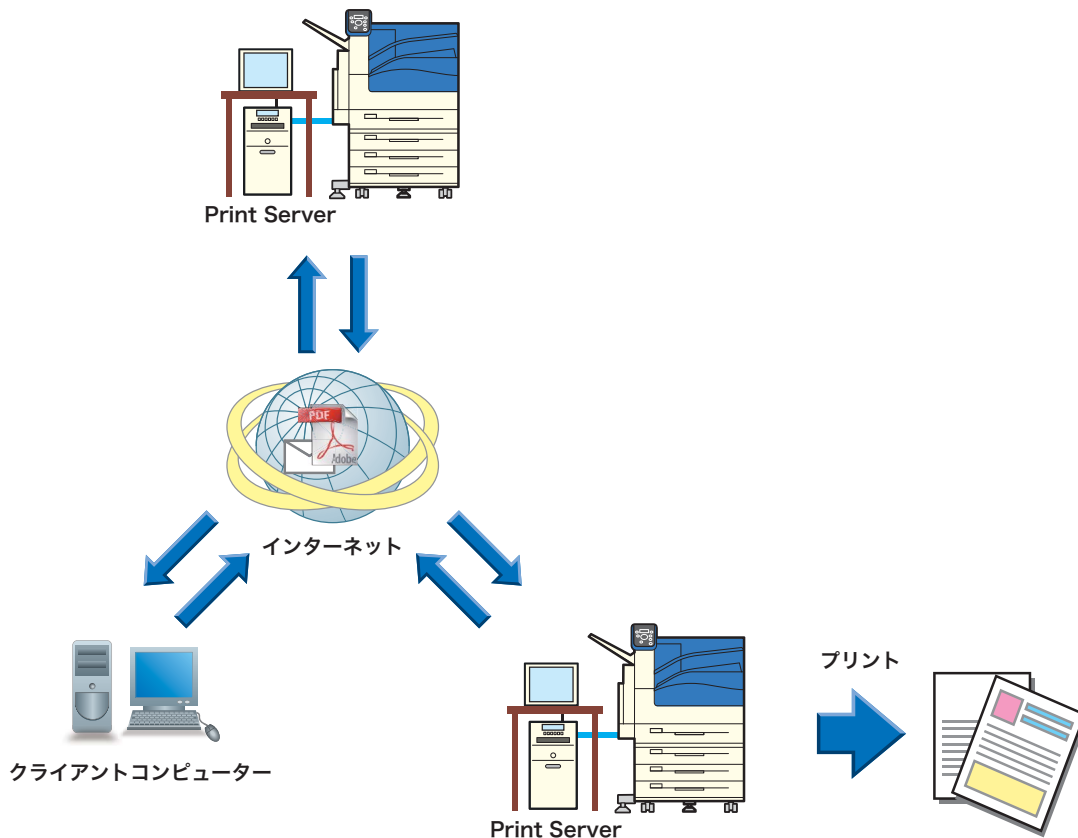
参照 詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「5.2 WebManagerについて」を参照してください。

プレビューを確認しながらジョブを編集する

Raster Image Viewerを使用すると、Print Serverに保持されているジョブのプレビュー画像を表示させて、調整前と調整後のイメージを確認しながらジョブを編集できます。また、ユーザー調整カーブと明るさの調整ができます。

■Raster Image Viewer

参照 詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「3.4 Raster Image Viewerを使用する」を参照してください。

赤入れ校正を相手先へ送信・自動プリントする

依頼先・制作会社などが互いに遠隔地にある場合でも、赤入れ校正などをカラーでタイムリーに伝達することができます。
データを登録しておいたメールアドレスに添付ファイルとして送信、またデータをリモートのPrint Serverに送信したり、メールを受信してそのまま自動的にプリントしたりすることもできます。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の下記を参照してください。
「3.5 ファイルを送受信する、転送する」

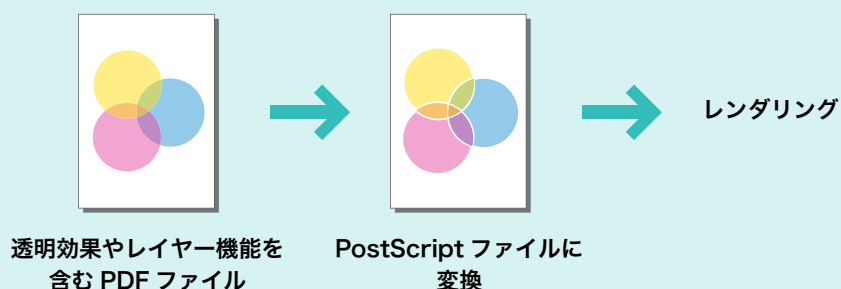
APPEでRIP処理する

レンダリングエンジン(RIP用ソフトウエア)としてAPPE(Adobe PDF Print Engine)を使用することもできます。

従来のCPSI（Configurable PostScript Interpreter）では、透明効果やレイヤー機能を含むPDFファイルをプリントするとき、RIP前にいったんPostScriptファイルに変換して、透明部分やレイヤー部分を分割、統合してプリントしていたため、出力イメージにズレが発生することがありました。

APPEでは、PostScriptに変換せず、そのままRIP処理するため、透明効果やレイヤー機能などの情報が欠落することなく、より高速で、高品質な出力が可能になります。

APPEは、ファイルタイプがPDFで、サムネール編集情報を保持していないジョブのときだけ設定できます。

この機能はオプションです。DTP機能拡張キットのライセンスを設定していない場合、APPEでのプリントはできません。ライセンスの設定については、「ライセンスの設定」(P.47) を参照してください。

特色を管理する

任意の色を特色として登録できます。

登録した色は、その後に処理されたジョブから特色として使用でき、さらにPrint Serverに登録されている特色名や特色の値の変更、色見本のプリント、およびデフォルトで登録されている特色の値をカスタマイズして再登録できます。

詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「2.8 特色を設定する」を参照してください。

ネットワークとPrint Serverの設定

Print Server のネットワークの環境設定、および ServerManager の環境設定について説明しています。

1.1 Print Serverの設定をする

Print Serverを起動したら、ネットワーク環境の設定をします。
また、システムを再インストールした場合は、ネットワーク環境も再設定が必要です。

Print Serverのセットアップについては、『ユーザーズガイドセットアップ編』を参照してください。

1.1.1 Print ServerのIPアドレスとアカウントの設定

Print Serverを使用するためには、TCP/IPアドレスの設定とWindows 7のアカウントの設定が必要です。

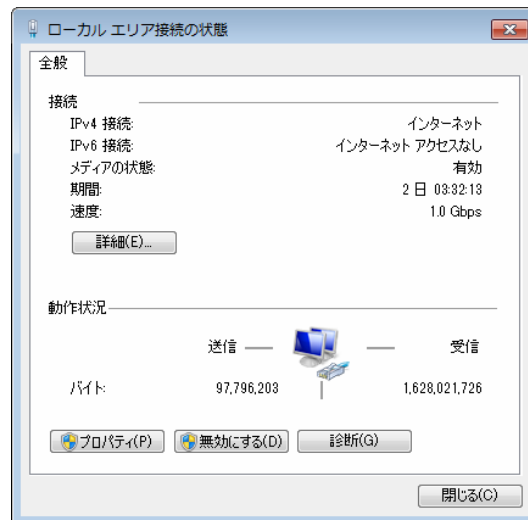
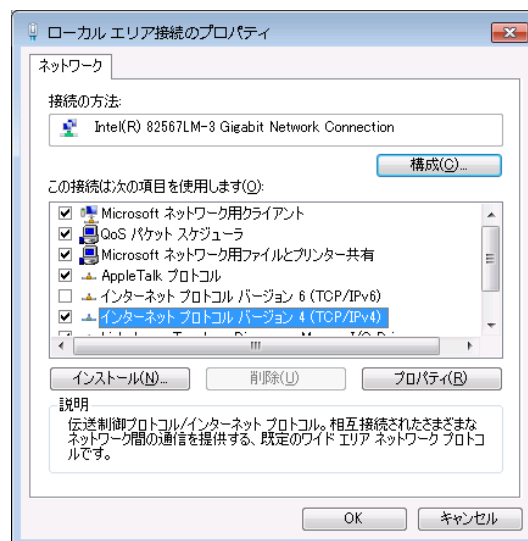
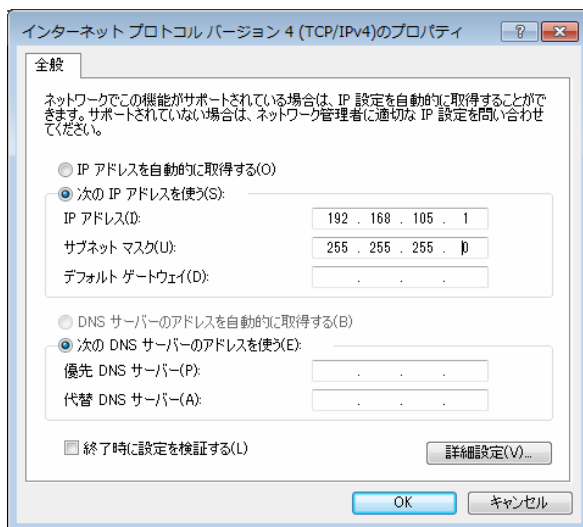
TCP/IPの設定

TCP/IPの設定を始める前に、以下の点を確認してください。
・Print ServerのIPアドレスが固定IPアドレスである（動的割り当てでない）こと
・有効なアドレス情報（IPアドレス、サブネットマスク番号など）をネットワーク管理者から確認済みであること

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［コントロールパネル］を選択します。
2. ［ネットワークと共有センター］をクリックします。

3. [ローカル エリア接続] をクリックします。

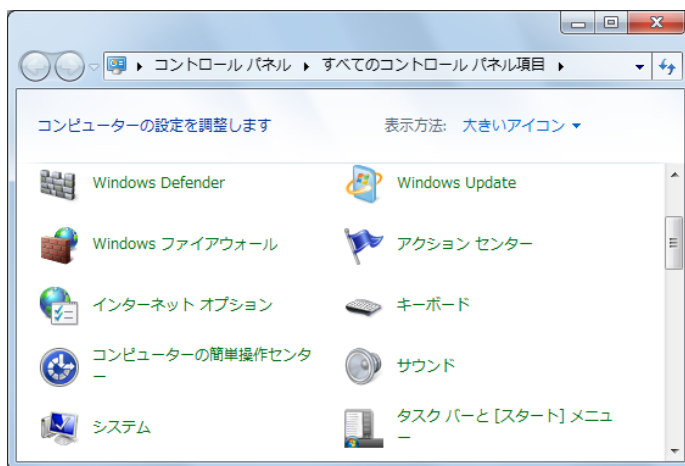
4. [プロパティ] をクリックします。

5. コンポーネントの [インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)] をダブルクリックします。

6. [次のIPアドレスを使う] を選択し、[IPアドレス] にPrint ServerのIPアドレスを入力し、[OK] をクリックします。

必要に応じて、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、およびDNSのアドレスを入力します。

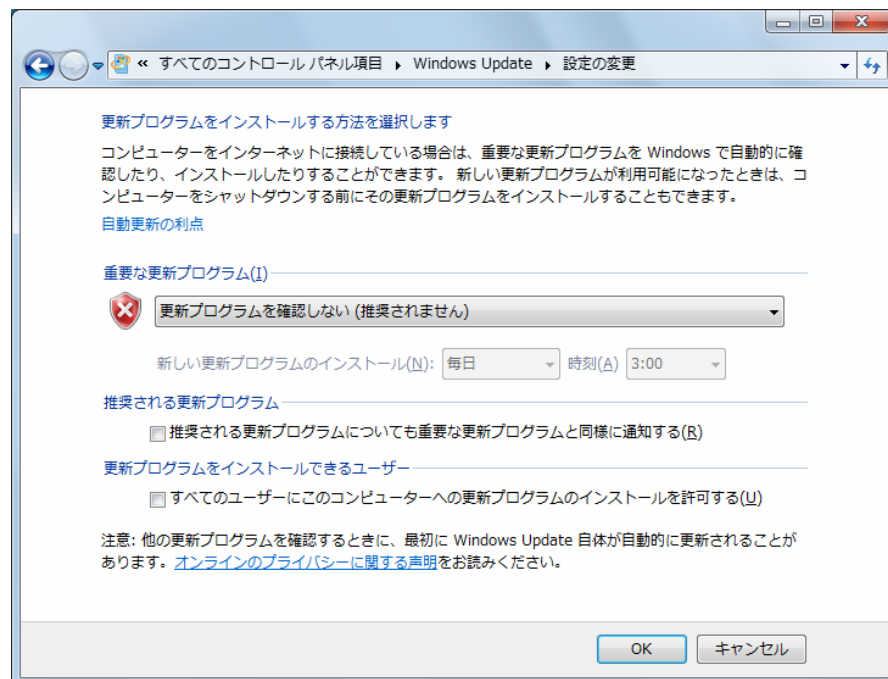
7. [ローカル エリア接続のプロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

Print ServerでTCP/IPが有効になります。

補足　Print Serverは IPv6 には対応していません。

8. Windowsの [スタート] → [コントロールパネル] を選択します。

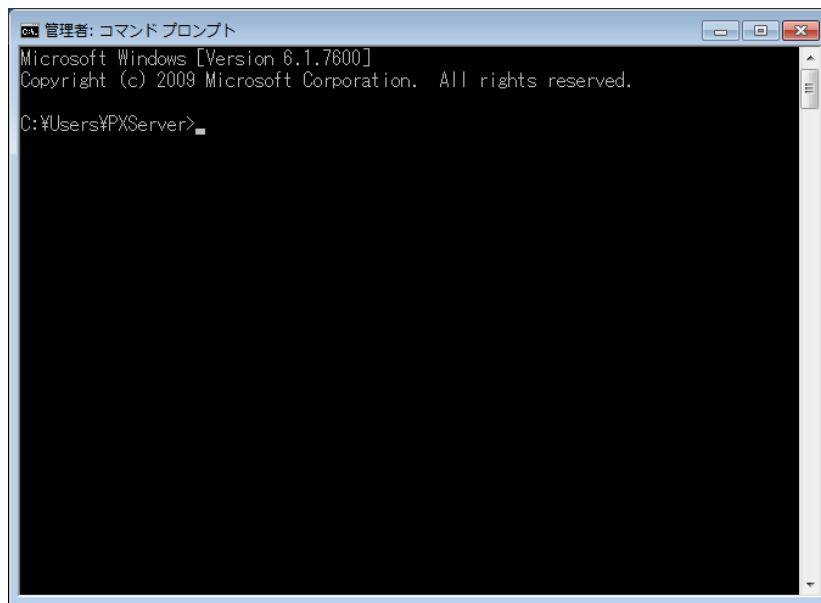
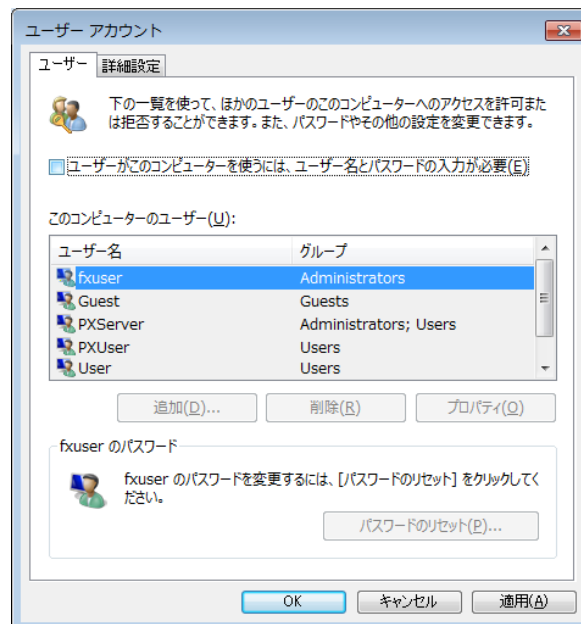
9. [Windows Update] をクリックします。

10. 左側のメニューから［設定の変更］をクリックします。

11. ［重要な更新プログラム］で、［更新プログラムを確認しない（推奨されません）］を選択して、［OK］をクリックします。

12. Print Serverを再起動します。

Windows 7のアカウント管理

サーバー管理への不正アクセスを防止するために、管理者権限のあるユーザーのパスワードを設定します。パスワードを設定すると、Print Server の起動時に Windows 7 のログインダイアログボックスで、パスワードの入力が必要になります。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を選択します。
2. 「start control userpasswords2」と入力し、〈Enter〉キーを押します。

3. ［ユーザーアカウント］ダイアログボックスで、〈Ctrl〉キーと〈Alt〉キーを同時に押しながら、〈Delete〉キーを押します。

4. ［パスワードの変更］をクリックします。

［パスワードの変更］画面が表示されます。

5. ［古いパスワード］に既存の管理者権限のあるユーザーのアカウントのパスワードを入力し、［新しいパスワード］に新しい管理者権限のあるユーザーのアカウントのパスワードを入力します。

管理者権限のあるユーザー（「PXServer」）のパスワードのデフォルトは、「n01_printserver」です。

6. 確認のため［新しいパスワードの確認入力］に同じパスワードを入力します。

7. ［OK］をクリックします。

8. ［ユーザーアカウント］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

「PXServer」アカウントのパスワードの変更が有効になります。

続いて、使用するネットワークに応じて、環境を設定します。

参照 パスワード変更の詳細は、Windowsのオンラインヘルプを参照してください。Windowsのオンラインヘルプは、タスクバーの［スタート］をクリックして表示される［ヘルプとサポート］を選択すると、表示されます。

1.1.2 Macintoshクライアント用のプロトコル設定と論理プリンタの作成

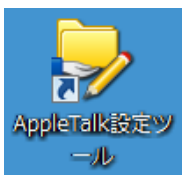
Print ServerがMacintoshクライアントからのジョブを受信するためには、以下の設定が必要です。

・「AppleTalkプロトコルの設定」（P.27）
・「共有フォルダの設定」（P.30）
・「ServerManagerの設定」（P.31）

AppleTalkプロトコルの設定

AppleTalkプリンターや、AppleTalkによるAFP（Apple Filing Protocol）サービスを使用する場合は、以下の設定が必要です。

操作手順

1. Print Serverデスクトップの「AppleTalk設定ツール」アイコンをダブルクリックします。

AppleTalk設定ツールが起動します。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［AppleTalk 設定ツール］を選択しても、AppleTalk設定ツールを起動できます。

2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

各項目の詳細は、「［AppleTalk設定ツール］ダイアログボックス」（P.28）を参照してください。

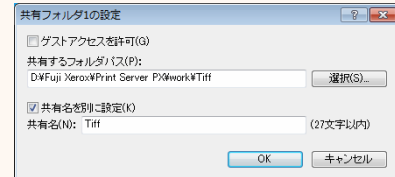
[AppleTalk設定ツール]ダイアログボックス

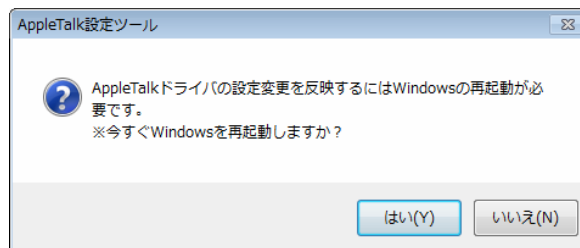
[AppleTalk設定ツール]ダイアログボックスでは、以下の項目を設定できます。

項目		説明
サーバ名		AppleTalkネットワークで表示されるPrint Serverのコンピューター名が表示されます。 補足 [サーバ名]を変更する場合は、Print Serverのコンピューター名を変更してください。
ネットワーク		AppleTalkプロトコルで接続するためのネットワークポートを設定します。 有効なネットワークを選択します。
AppleTalkゾーン		[ネットワーク]で設定されたネットワークポートで、AppleTalkゾーンが検出された場合にゾーンが表示されます。 メニューに複数のゾーンがある場合は、使用するゾーンを選択します。
共有設定	共有フォルダ1～5の設定	共有するローカルフォルダーの有効/無効を設定します。チェックマークを付けると、フォルダーが有効になります。設定できるフォルダーは最大5個で、デフォルトでは、以下のフォルダーが設定されています。 • 共有フォルダ1 D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥Tiff • 共有フォルダ2 D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥HotFolder フォルダーの詳細設定は、[共有フォルダ＊の設定（＊）]をクリックして表示される[共有フォルダ＊の設定]ダイアログボックスで行います。 参照 [共有フォルダ＊の設定]ダイアログボックスについては、「[共有フォルダ＊の設定]ダイアログボックス」(P.29)を参照してください。
	AFP over AppleTalkでフォルダ共有する	チェックマークを付けると、AppleTalkプロトコルでAFP共有が行われます。 Mac OS 9.2.2～Mac OS X 10.3のクライアントコンピューターから共有フォルダを使う場合も、チェックマークを付けます。 補足 Mac OS X 10.4以降のクライアントコンピューターでは、AFP over AppleTalkはサポートしていません。AFP over TCPを使用してください。
	AFP over TCPでフォルダ共有する	チェックマークを付けると、TCP/IPプロトコルで、AFP共有が行われます。 Mac OS X 10.4以降のクライアントコンピューターから共有フォルダを使う場合も、チェックマークを付けます。 補足 デフォルトでは、AFP over TCPで使用するポート番号「548」は閉じています。 AFP over TCPを使用する場合は、Windowsに管理者権限を持つユーザー名でログインし、[スタート]→[コントロールパネル]→[Windows ファイアウォール]→[Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]で、[ファイルとプリンターの共有]と[Fuji Xerox AFP Service]の[ホーム/社内(プライベート)]にチェックマークを付けてください。
リンクアップからAARP開始までの秒数		ネットワークで「スパニングツリー・プロトコル(Spanning Tree Protocol)」が使用されている場合、スパニングツリーの再構築処理とAppleTalkアドレスの割り当て、およびネットワークの検索などが重なると、必要なパケットが失われてしまうことがあります。この対策として、起動後最初のリンクアップからAARPを開始するまでの時間を入力します。入力範囲は、0～120です。

［共有フォルダ＊の設定］ダイアログボックス

［共有フォルダ＊の設定］ダイアログボックスでは、以下の項目を設定できます。

［＊］には任意の数字が入ります。

項目	説明
ゲストアクセスを許可	チェックマークを付けると、クライアントコンピューターからゲストアクセスが行われます。 チェックマークを外すと、クライアントコンピューターからのアクセス時には、ユーザー名 / パスワードの入力が必要です。ユーザー名 / パスワードは、Windowsのユーザー名/パスワードを入力します。 補足　Mac OS X 10.5 以降のクライアントコンピューターからアクセスする場合、ユーザー名/パスワードによる認証には対応していませんので、ゲストアクセスを許可してください。
共有するフォルダパス	AFPサービスで共有するフォルダーを設定します。 設定を変更するには、［選択］をクリックして表示される［フォルダの参照］ダイアログボックスで、フォルダーを選択して［OK］をクリックします。
共有名を別に設定	チェックマークを付けたときは、クライアントコンピューターから見える共有フォルダに、共有フォルダの共有名と異なる名称を設定して、［共有名］に名称を入力します。 チェックマークを外すと、［共有するフォルダパス］で設定したフォルダー名の先頭27バイトが共有名として設定されます。
共有名	［共有名を別に設定］にチェックマークが付いている場合に入力します。クライアントコンピューターからのアクセス時に表示される共有名を入力します。

3. ［はい］をクリックします。

Print Serverが再起動します。

- 設定内容によっては、ダイアログボックスが表示されないことがあります。
- ［いいえ］をクリックした場合、変更した設定は再起動するまで有効になりません。

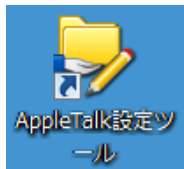
Print Serverが所属するAppleTalkのゾーンが設定されます。

続いて、共有フォルダの設定を行います。

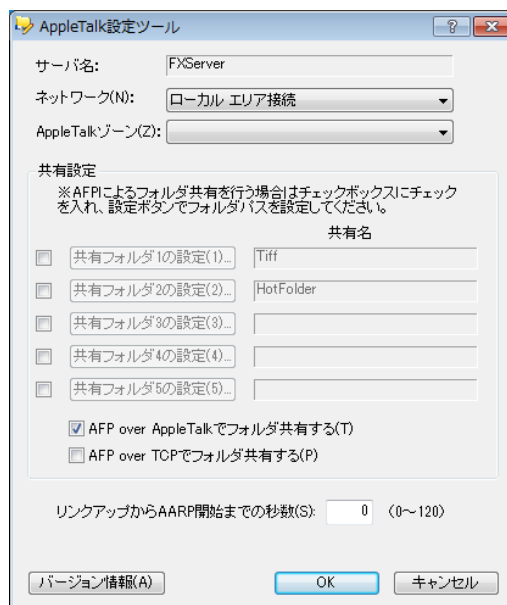
共有フォルダの設定

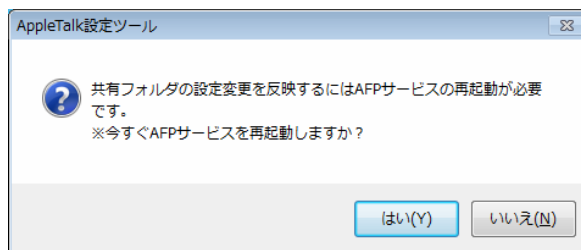
AFPサービスによるフォルダー共有を行う場合、以下の設定が必要です。
AFPサービスは、AppleTalkプロトコルとTCPプロトコルのどちらか、または両方で動作します。

操作手順

1. Print Serverデスクトップの「AppleTalk設定ツール」アイコンをダブルクリックします。

AppleTalk設定ツールが起動します。

補足 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［AppleTalk 設定ツール］を選択しても、AppleTalk設定ツールを起動できます。

2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

参照 各項目の詳細は、「［AppleTalk設定ツール］ダイアログボックス」（P.28）を参照してください。

3. ［はい］をクリックします。

AFPサービスが再起動します。

［いいえ］の場合、変更した設定は、AFPサービスを再起動するか、Print Serverを再起動するまで有効になりません。

ServerManagerの設定

ServerManagerでAppleTalkを起動します。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［FX ServerManager］を選択します。

   ServerManagerが起動します。

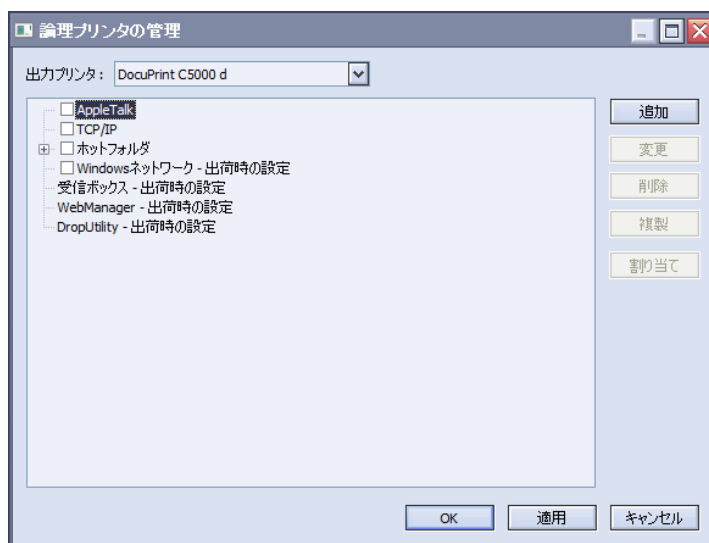
2. ［ログイン］をクリックし、［ログイン］ダイアログボックスから、管理者モードでログインします。

   補足　ServerManagerの［システム］→［ログイン］を選択しても、［ログイン］ダイアログボックスを表示できます。

   参照　管理者用のパスワードについては、『ユーザーズガイドセットアップ編』を参照してください。

3. ［論理プリンタの管理］をクリックします。

   補足　ServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］を選択しても、［論理プリンタの管理］ダイアログボックスを表示できます。

4. ［AppleTalk］を選択して、［追加］をクリックします。

5. ［起動中］にチェックマークが付いていることを確認し、AppleTalk からプリントするときは、［プリンタ名］に使用するプリンター名を入力し、［OK］をクリックします。

   参照　［論理プリンタの追加］ダイアログボックスについては、「［論理プリンタの追加］ダイアログボックス」（P.32）を参照してください。

6. ［論理プリンタの管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

7. ServerManagerのネットワーク状態ウィンドウに、「AppleTalk」が表示されていることを確認します。

Macintoshクライアントからのジョブを受信できます。

[論理プリンタの追加] ダイアログボックス

AppleTalk、TCP/IP、およびホットフォルダの追加時に表示される、[論理プリンタの追加] ダイアログボックスでは、以下の項目を設定できます。

補足 設定できるプリンターの数は、AppleTalkは最大50、TCP/IPは最大20です。

項目	説明
起動中	論理プリンタを起動します。
プリンタ名 / フォルダ名	プリンター名（フォルダー名）を入力します。 補足 ・プリンター名には「FXPSPX」をお勧めします。 ・同一ゾーン、または同一ネットワーク内でプリンターを複数設定している場合は、異なるプリンター名を付けてください。
lpr のコントロールファイルを無視する	チェックマークを付けると、lpr のジョブを受信するときに、コントロールファイルが無視されます。 データファイルを受信しながらRIP処理をするときも、チェックマークを付けます。 補足 ・この項目は、TCP/IPの場合だけ表示されます。 ・チェックマークを付けると、PostScriptファイル内の記述から所有者名、およびジョブ名が入手され、ServerManager やプリント履歴に表示されます。 ・UNIX システムから lpr でプリントした場合は、ジョブデータのうちデータファイルが先に送られ、次にコントロールファイルが送られます。この場合、Print Serverではデータファイルとコントロールファイルの両方を受信してからRIPが開始されますが、チェックマークを付けると、コントロールファイルを待たずに、RIP処理が行われます。 ・PostScript/PDF/EPS/TIFF/JPEGファイルをプリントする場合、コントロールファイルはプリント時に必要ありません。
フォルダを共有する	チェックマークを付けると、フォルダーが共有されます。 補足 この項目は、ホットフォルダの場合だけ表示されます。

1.1.3　TCP/IP用の論理プリンタの作成

Print ServerがTCP/IPクライアントからのLPR/LPDジョブ、およびホットフォルダを利用したFTPからのジョブを受信するためには、以下の論理プリンタの設定が必要です。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［FX ServerManager］を選択します。

   ServerManagerが起動します。

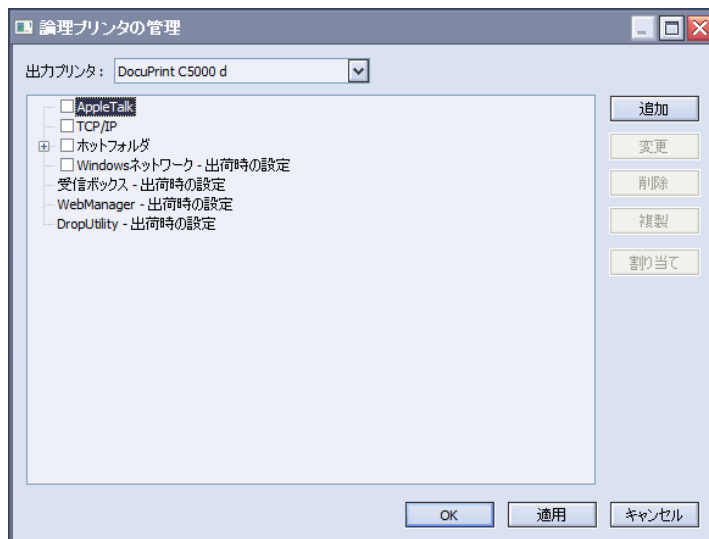
2. ［ログイン］をクリックし、［ログイン］ダイアログボックスから、管理者モードでログインします。

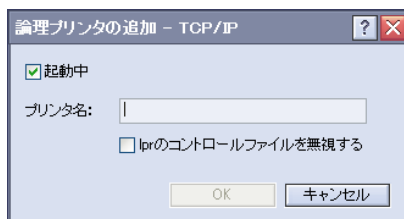
   補足　ServerManagerの［システム］→［ログイン］を選択しても、［ログイン］ダイアログボックスを表示できます。

   参照　管理者用のパスワードについては、『ユーザーズガイドセットアップ編』を参照してください。

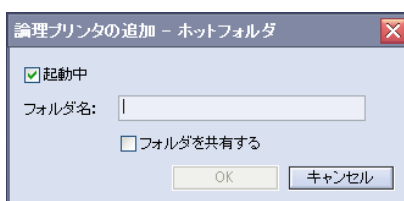
3. ［論理プリンタの管理］をクリックします。

   補足　ServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］を選択しても、［論理プリンタの管理］ダイアログボックスを表示できます。

4. ［TCP/IP］、または［ホットフォルダ］を選択して、［追加］をクリックします。

◆TCP/IPを利用してLPR/LPDジョブをプリントする場合

［起動中］にチェックマークが付いていることを確認し、lprからプリントするときは、［プリンタ名］に使用するプリンター名を入力して、［OK］をクリックします。

［論理プリンタの追加］ダイアログボックスについては、「［論理プリンタの追加］ダイアログボックス」（P.32）を参照してください。

◆ホットフォルダを利用してFTPからプリントする場合

［起動中］にチェックマークが付いていることを確認し、［フォルダ名］にフォルダー名を入力して、［OK］をクリックします。

- 以下の作業用フォルダーの下に、サブフォルダーが作成されます。作業用フォルダーについては、「1.2.4 作業用フォルダーの設定」（P.52）を参照してください。
  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥HotFolder¥folder1
- 設定できるサブフォルダーは、最大50です。

［論理プリンタの追加］ダイアログボックスについては、「［論理プリンタの追加］ダイアログボックス」（P.32）を参照してください。

5. ［論理プリンタの管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。
6. ServerManagerのネットワーク状態ウィンドウに、「TCP/IP」、および「ホットフォルダ」が表示されていることを確認します。
   TCP/IPクライアントからのジョブを受信できます。

1.1.4 Microsoft Windows Network用の論理プリンタの作成

Print ServerがWindowsクライアントからMicrosoft Windows Network経由でジョブを受信するためには、以下の論理プリンタの設定が必要です。デフォルトでは、［FXSERVER］の名称で通信するように設定されています。共有の設定が必要な場合に、以下の設定を行います。

Windows ネットワークでの共有プリンターを使用してプリントする場合は、Print Serverで、Windowsに管理者権限を持つユーザー名でログインし、［スタート］→［コントロールパネル］→［Windows ファイアウォール］→［Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する］で、［ファイルとプリンターの共有］と［Fuji Xerox AFP Service］の［ホーム / 社内（プライベート）］にチェックマークを付けてください。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［FX ServerManager］を選択します。
   ServerManagerが起動します。

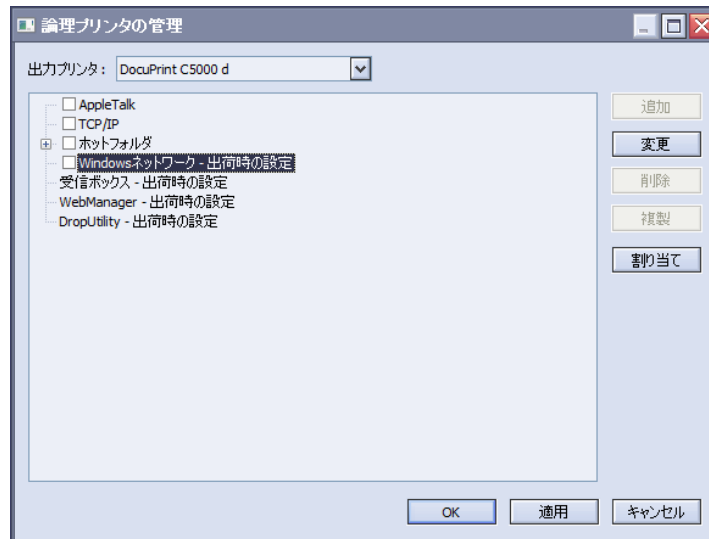
2. [ログイン]をクリックし、[ログイン]ダイアログボックスから、管理者モードでログインします。

ServerManagerの[システム]→[ログイン]を選択しても、[ログイン]ダイアログボックスを表示できます。

管理者用のパスワードについては、『ユーザーズガイドセットアップ編』を参照してください。

3. [論理プリンタの管理]をクリックします。

補足 ServerManagerの[管理]→[論理プリンタの管理]を選択しても、[論理プリンタの管理]ダイアログボックスを表示できます。

4. [Windowsネットワーク]を選択し、[変更]をクリックします。

5. プリンターを共有する場合は、[Windowsプリンタを共有する]にチェックマークが付いていることを確認し、[共有プリンタ名]に共有プリンター名を入力して、[OK]をクリックします。

6. [論理プリンタの管理]ダイアログボックスで、[OK]をクリックします。

Microsoft Windows Network経由で、クライアントコンピューターからのジョブを受信できます。

1.2　ServerManagerの設定をする

ここでは、ServerManagerで設定できることについて説明します。

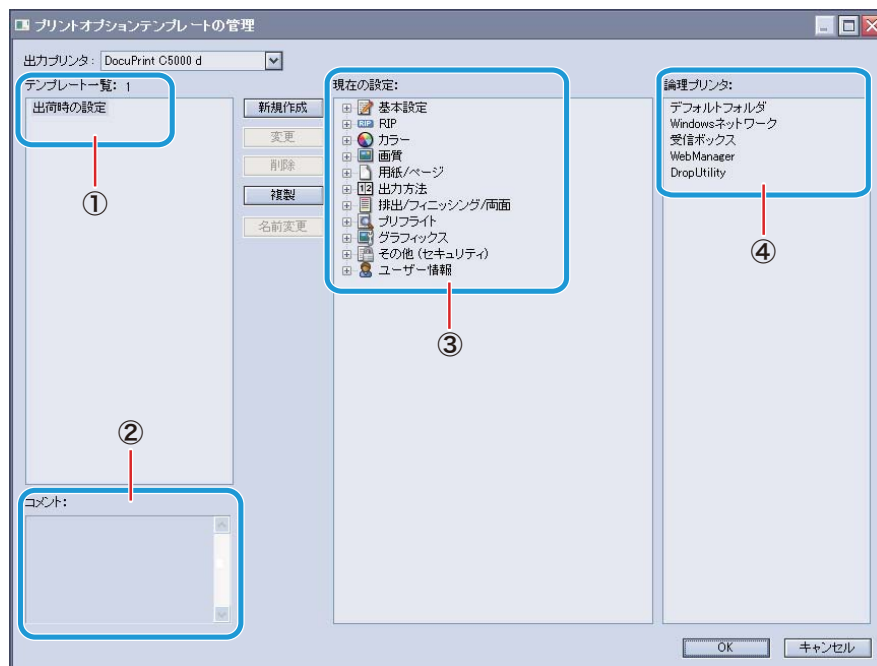
1.2.1　プリントオプションテンプレートの設定

プリントオプションテンプレートを利用すると、プリントオプションのデフォルトの編集、およびよく使用する機能の組み合わせを登録し、ジョブに割り当てることができます。

- プリントオプションテンプレートの新規作成、変更、削除、複製、および名前変更は、管理者モードのときに操作できます。
- ［出荷時の設定］は、変更できません。

プリントオプションテンプレートは、以下のジョブ、または項目に適用されます。

- PDF/TIFF/JPEG/EPSファイル
- プリンタードライバーを使用しないで作成したPostScriptファイル
- 特別なプリンタードライバー（特別なPPDやシステムなど）からプリントする場合で、機能の設定が省略された項目

ServerManagerの［管理］→［プリントオプションテンプレートの管理］を選択します。
［プリントオプションテンプレートの管理］ダイアログボックスが表示されます。

①テンプレート一覧

テンプレートの一覧が表示されます。

②コメント

テンプレート一覧で選択されたテンプレートに付けられたコメントが表示されます。

③現在の設定

テンプレート一覧で選択されたテンプレートの設定が、一覧で表示されます。
出荷時の設定と異なる項目は先頭に「*」が表示されます。
「強制上書き」([テンプレートを優先])が［する］になっている項目は、チェックマークが付いています。

④論理プリンタ

テンプレート一覧で選択されたテンプレートが割り当てられている、論理プリンタの一覧が表示されます。

●新規作成

テンプレートが新規に作成されます。

●変更

選択したテンプレートを編集します。

・選択しているテンプレートをダブルクリックしても［変更］ダイアログボックスを表示できます。
・デフォルトのテンプレート(「出荷時の設定」)は、編集できません。

●削除

選択したテンプレートが削除されます。
複数選択できます。

・デフォルトのテンプレート(「出荷時の設定」)は、削除できません。
・削除したテンプレートが割り当てられていた論理プリンタの設定は、デフォルトの状態になります。
・複数選択したときに、「出荷時の設定」が含まれている場合は、「出荷時の設定」以外が削除されます。

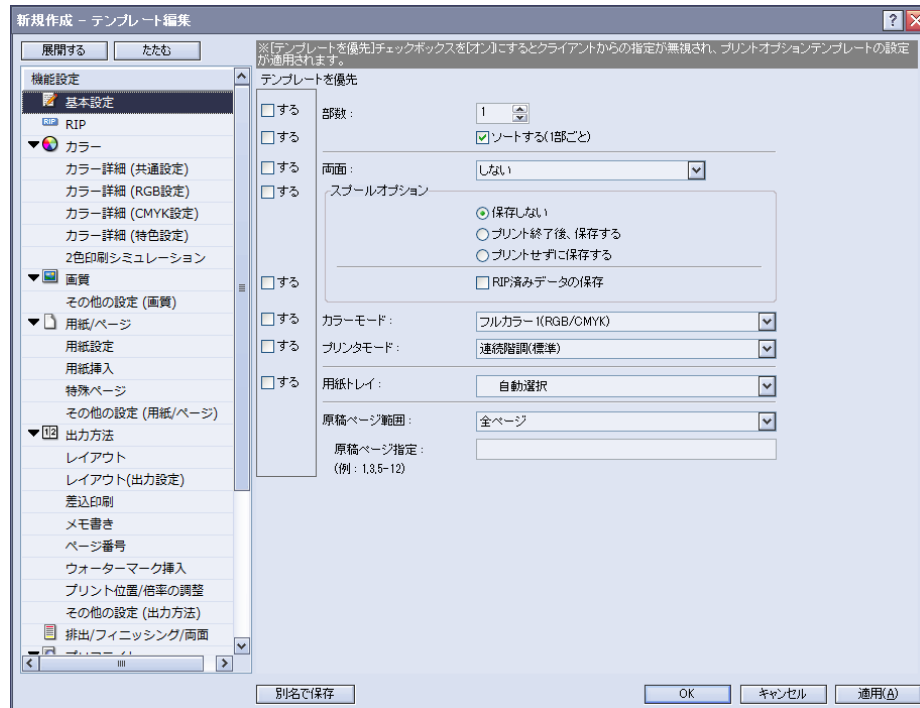
●複製

選択したテンプレートが複製されます。

●名前変更

選択したテンプレートの名前を変更します。

編集方法

機能設定ツリーの各項目を設定し、［OK］をクリックします。

機能設定ツリーには、以下の項目があります。

- 基本設定
- RIP
- カラー
- 画質
- 用紙/ページ
- 出力方法
- 排出/フィニッシング/両面
- プリフライト
- グラフィックス
- その他（セキュリティ）
- ジョブ情報
- ユーザー情報

プリントオプションの組み合わせによっては、指定したとおりに適用されない場合があります。

各項目の説明については、『ユーザーズガイド運用編』の「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」を参照してください。

［テンプレート編集］ダイアログボックスには、以下の共通項目があります。

●テンプレートを優先（強制上書き項目）

［する］にチェックマークを付けると、クライアントコンピューターからの設定が無視され、プリントオプションテンプレートの設定が適用されます。

強制上書き項目の設定は、以下の項目よりも優先されます。

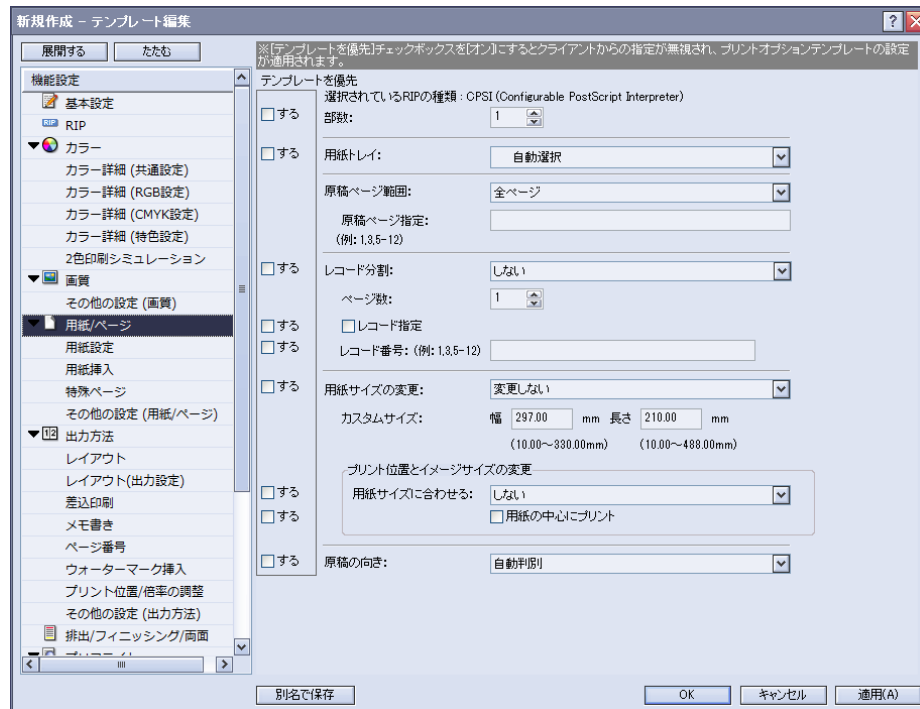
- プリンタードライバー、DropUtility、およびWebManagerからのプリント
- DropUtility、およびWebManagerの［ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う］
- ServerManagerの［ジョブ］→［ジョブ読み込み］、およびWebManagerの［アップロード］で読み込んだ、プリントオプションの設定を含むPostScriptファイル

●別名で保存

現在のプリントオプションテンプレートの設定が別名で保存されます。表示されたダイアログボックスで、名前を入力し、［OK］をクリックします。

●適用

現在のプリントオプションテンプレートが保存されます。

■［用紙/ページ］ダイアログボックス固有の注意事項

・［用紙サイズの変更］が［変更しない］以外の場合は、プリンタードライバーのプリント設定項目で選択した用紙サイズは無視され、設定した用紙サイズでRIP処理されます。

・用紙サイズは、プリントオプションで用紙サイズを設定していない場合だけ適用されます。

・［用紙サイズに合わせる］/［用紙の中心にプリント］は、［用紙サイズの変更］が［変更しない］以外の場合だけ有効です。

1.2.2　ServerManagerの環境設定

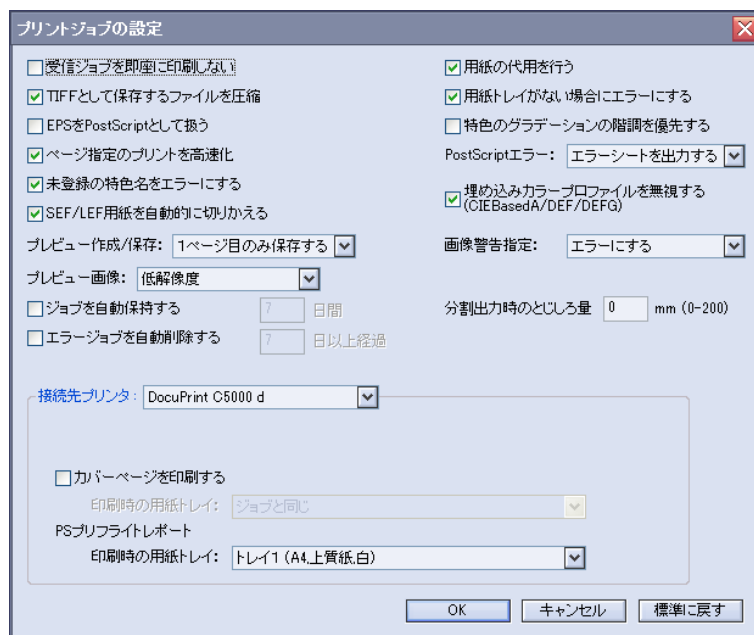
ServerManagerの環境をネットワーク管理者が使いやすいようにカスタマイズします。

設定は、ServerManagerのメニューから行います。

・「プリントジョブの設定」（P.40）
・「論理プリンタの管理」（P.42）
・「ジョブ履歴の設定」（P.43）
・「ボックスの設定」（P.44）
・「オプションメモの設定」（P.45）
・「キャリブレーションの通知設定」（P.46）
・「ライセンスの設定」（P.47）
・「プリンター設定」（P.48）

メニューを選択したあと、［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

プリントジョブの設定

ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］を選択します。

■受信ジョブを即座に印刷しない

チェックマークを付けると、受信したすべてのジョブがプリントオプションの［出力方法］＞［スプールオプション］の設定に関係なく、保持リストに入ります。RIP処理もされません。

■TIFFとして保存するファイルを圧縮

チェックマークを付けると、TIFFファイルが圧縮されます。圧縮して保存するとファイルサイズが小さくなるので、ハードディスクの容量を節約できます。

■EPSをPostScriptとして扱う

チェックマークを付けると、ファイルタイプがEPSのジョブもPostScriptとして処理されます。

- EPS ファイルをプリントする場合は、チェックマークを外してください。チェックマークを付けると、ジョブがプリントされず、消去されることがあります。
- チェックマークを付けると、以下の機能が無効になります。
  - タイトルのプリント
  - %%BoundingBOXを参照した場合の座標系の調整
  - showpageがない場合のプリント

■ページ指定のプリントを高速化

チェックマークを付けると、プリント範囲として選択されたページだけがRIP処理されてプリントされます。

■未登録の特色名をエラーにする

チェックマークを付けると、Print Serverに登録されていない特色が使用されているジョブは、エラーになります。

チェックマークを外すと、アプリケーションから送信されるCMYK値でプリントされます。

■SEF/LEF用紙を自動的に切りかえる

チェックマークを付けると、用紙方向が自動的に切り替わります。たとえばA4Lの用紙トレイしかない場合でも、A4サイズ指定でのプリント時にA4Lに割り付けてプリントされます。

■プレビュー作成/保存

プレビュー用データの保存方法を、以下の項目から選択します。

・作成しない　・保存しない　・1ページ目のみ保存する　・全ページ保存する

■プレビュー画像

プレビュー用データの解像度を、以下の項目から選択します。

・低解像度　・中解像度　・高解像度

- [低解像度] は300pixel、[中解像度] は900pixel、[高解像度] は1,500pixelです。
- [高解像度] の解像度は以下のファイルの [Setting] の [PreviewSize] の数値を変更することで設定できます。ただし、解像度を高くすると、プリント時間が遅くなることがあります。
  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥FX_RIP.ini
- ini ファイルの変更前に、デスクトップなど別の場所に ini ファイルのバックアップ（複製）を作成しておくことをお勧めします。

■ジョブを自動保持する

チェックマークを付けると、プリントオプションの [出力方法] ＞ [スプールオプション] が [保存しない] のジョブが自動で保持されます。入力範囲は、1～999です。

■エラージョブを自動削除する

チェックマークを付けると、入力した日数を超したエラージョブがリストから削除されます。デフォルト（7日）では、1月10日にエラーが発生して、そのジョブがエラーリストに入ると、1月17日にエラージョブが削除されることになります。入力範囲は、0～999日以上経過です。

■用紙の代用を行う

選択された用紙サイズが用紙トレイにないときに、ほかのサイズの用紙で代用してプリントするかどうかを設定します。

チェックマークを付けると、レター用紙が用紙トレイにないときはA4用紙で、A4用紙が用紙トレイにない場合はレター用紙で代用されます。また、11×17サイズの用紙が用紙トレイにないときはA3用紙で、A3用紙が用紙トレイにないときは11×17サイズの用紙で代用されます。

この機能は選択された用紙サイズのトレイが装着されていない、またはセットされていない場合だけ有効です。選択された用紙サイズのトレイが存在し、用紙切れの場合、この機能は無効になります。

■用紙トレイがない場合にエラーにする

チェックマークを付けると、選択された用紙サイズの用紙トレイが存在しない場合や選択された用紙トレイが用紙切れの場合に、ジョブはエラーリストに移動します。

チェックマークを外すと、エラーメッセージが表示されます。

■特色のグラデーションの階調を優先する

チェックマークを付けると、グラデーションの中間部がCMYK値で連続に推移するように処理します。

■PostScriptエラー

PostScriptエラーが発生したときの処理方法を、以下の項目から選択します。

・ジョブを停止する　・ジョブを継続する　・エラーシートを出力する

エラーシートには、以下の項目がプリントされます。

・ユーザー名　・ドキュメント名　・日時　・PostScriptエラー内容

- 以下のジョブでPostScriptエラーが発生した場合も、プリントの対象になります。
  スタートアップページ/フォント一覧のプリント/プリント履歴のプリント/プリフライトレポートのプリント
- 以下の項目を設定したジョブでは、エラーシートはプリントされません。
  ビルドジョブ/プリントオプションの [プリフライト] ＞ [TIFFで保存する]、または [PDFで保存する] /ServerManager、または WebManager のプリフライトレポートの作成 /ServerManager、または WebManagerの [ジョブ] → [RIP済みデータを作成]
- 用紙切れでエラーシートがプリントされなかった場合は、用紙切れのエラーになりません。

■埋め込みカラープロファイルを無視する（CIEBasedA/DEF/DEFG）

チェックマークを付けると、CIEBasedA/DEF/DEFGがそれぞれDeviceGray/DeviceRGB/DeviceCMYKとして扱われます。

チェックマークを外すと、CIEBasedA/DEF/DEFGのまま処理されます。

■画像警告指定

RGB画像警告、ヘアライン警告、インキ総量警告、オーバープリント警告、および特色警告が設定されているジョブの処理について、以下の項目から選択します。

・エラーにする　・無視する　・無視しない

■分割出力時のとじしろ量

A2L、B3LをそれぞれA3、B4用紙サイズに分割出力するときのとじしろ量を入力します。入力範囲は、0～200mmです。

とじしろ量の入力により、イメージが用紙に収まらないときは、分割前イメージの短辺の両端が均等に切れます。

■接続プリンタ

接続されているプリンターが表示されます。

●カバーページを印刷する

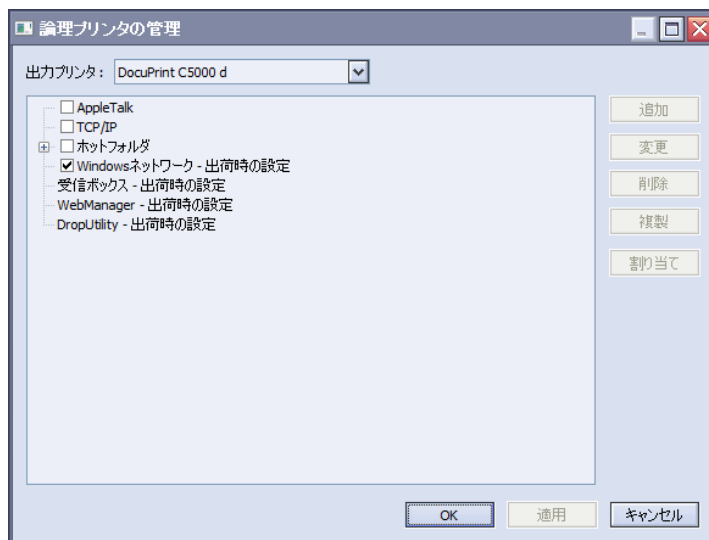
チェックマークを付けると、ジョブの最後にそのジョブの情報を記述したカバーページがプリントされます。

チェックマークを付けたときは、［印刷時の用紙トレイ］でプリントする用紙トレイを選択します。

●PSプリフライトレポート

［印刷時の用紙トレイ］でプリントする用紙トレイを選択します。

論理プリンタの管理

ServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］を選択します。

■AppleTalk、TCP/IP、ホットフォルダ、Windowsネットワーク

各クライアントコンピューターからのジョブを受信するために必要な、Print Serverの設定をします。設定方法については、以下を参照してください。

・「1.1.2 Macintoshクライアント用のプロトコル設定と論理プリンタの作成」（P.27）
・「1.1.3 TCP/IP用の論理プリンタの作成」（P.33）
・「1.1.4 Microsoft Windows Network用の論理プリンタの作成」（P.34）

各ネットワークに共通する設定項目は以下のとおりです。

●プロトコル

プロトコルには、AppleTalkとTCP/IPがあります。
プロトコル自体のオン / オフを設定します。チェックマークを付けると、プロトコル名の後に起動中の論理プリンタ数が表示されます。

●論理プリンタ

論理プリンタには、ホットフォルダ、およびWindowsネットワークがあります。
各論理プリンタの起動/停止を設定します。
プリンター名には、デフォルトのプリントオプションテンプレート名も表示されます。

●追加

各ネットワークのダイアログボックスが表示されます。

●変更

選択した論理プリンタを変更します。

●削除

選択した論理プリンタが削除されます。
誤って削除した場合は、［論理プリンタの管理］ダイアログボックスを［キャンセル］で終了すると、ダイアログボックスを開いたときの状態に戻せます。

●複製

選択した論理プリンタが複製されます。

●割り当て

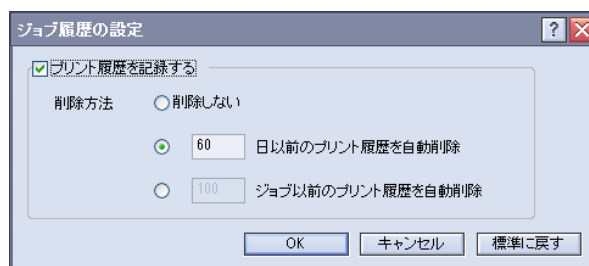
選択した論理プリンタに割り当てる、プリントオプションテンプレートを変更します。

■受信ボックス、WebManager、DropUtility

●割り当て

選択した項目に割り当てるプリントオプションテンプレートを変更します。

ジョブ履歴の設定

ServerManagerの［システム］→［ジョブ履歴］→［設定］を選択します。

■プリント履歴を記録する

チェックマークを付けると、プリント履歴が記録されます。
チェックマークを付けたときは、記録したプリント履歴の削除方法を選択します。

●削除しない

プリント履歴を削除しません。

●＊日以前のプリント履歴を自動削除

入力した日数を経過すると、記録したプリント履歴が自動で削除されます。入力範囲は、1～999です。

●＊ジョブ以前のプリント履歴を自動削除

入力したジョブ数を超えると、記録したプリント履歴が自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999です。

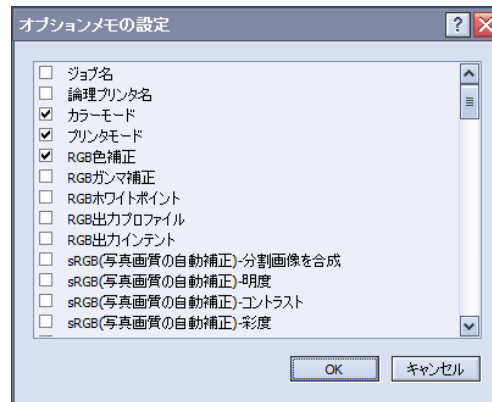
ボックスの設定

ServerManagerの［ボックス］→［ボックスの設定］を選択します。
メール送受信の設定や、メール送信時の分割ファイルサイズなど、各ボックス機能を使用するために必要な設定をします。

詳細と設定方法については、『ユーザーズガイド運用編』の「3.5.1 ボックスの設定」を参照してください。

オプションメモの設定

ServerManagerの［システム］→［オプションメモの設定］を選択します。
プリントオプションの［出力方法］＞［メモ書き］機能を有効にした場合に、印字する内容を設定します。
チェックマークが付いている項目が印字されます。

参照　［メモ書き］については、『ユーザーズガイド運用編』の「4.1.7 出力方法」を参照してください。

設定できる項目は、以下のとおりです。

- ジョブ名
- 論理プリンタ名
- カラーモード*
- プリンタモード*
- RGB色補正*
- RGBガンマ補正
- RGBホワイトポイント
- RGB出力プロファイル
- RGB出力インテント
- sRGB（写真画質の自動補正）-分割画像を合成
- sRGB（写真画質の自動補正）-明度
- sRGB（写真画質の自動補正）-コントラスト
- sRGB（写真画質の自動補正）-彩度
- sRGB（写真画質の自動補正）-自動ホワイトバランス調整
- sRGB（写真画質の自動補正）-人肌補正
- CMYKシミュレーション*
- PDF/xの出力インテントを使用する
- 特色補正プロファイル
- 特色補正インテント
- ユーザー調整*
- コンポジット特色補正*
- スムージング
- 原稿タイプ*
- キャリブレーション
- 2色印刷シミュレーション
- Image Enhancement/白抜き文字の強調
- トラッピングの自動処理
- 明るさ調整
- シャープネス調整
- ラスター色補正モード
- トナー総量調整*
- カラー置換
- 画像品質
- 細線調整
- グラデーション
- トラップ指定を無視する
- コンポジットオーバープリント
- 濃度調整
- 特色透過率
- Kオーバープリント
- EPS（JPEG圧縮）のカラー出力
- ノイズの軽減

＊：デフォルトでチェックマークが付いています。

キャリブレーションの通知設定

ServerManagerの［カラー］→［キャリブレーションの通知設定］を選択します。

■キャリブレーション時期の通知設定

●アラートを表示する

チェックマークを付けると、カウントの方法（出力ページ数、または経過時間）により、警告のダイアログボックスが表示されます。

●チャートを出力する

チェックマークを付けると、カウントの方法（出力ページ数、または経過時間）により、キャリブレーションチャートがプリントされます。

チェックマークを付けたときは、キャリブレーションチャートのプリント条件（部数、原稿タイプ、キャリブレーションターゲット、用紙トレイ）を選択します。

このチャートはキャリブレーション時期を通知するためのものです。キャリブレーションには使用できません。

キャリブレーションチャートのプリント条件については、『ユーザーズガイド運用編』の「2.2.2 キャリブレーションの実施」の「キャリブレーションファイルの作成」を参照してください。

●カウントの方法

［アラートを表示する］、または［チャートを出力する］のチェックマークが付いているときに、キャリブレーション時期が通知（警告のダイアログボックスの表示、またはキャリブレーションチャートのプリント）されるタイミングを設定します。

［出力ページ数］、［経過時間］の両方にチェックマークを付けたときは、どちらか一方が入力した数値を超えた場合に通知されます。

以下の場合は、カウントがリセットされ、0に戻ります。

- 通知されたとき
- チェックマークが外れている状態から、チェックマークを付けて設定を保存したとき
- キャリブレーションの操作で、キャリブレーションファイルを保存したとき

●通知を行う出力ページ数

キャリブレーションの通知が行われる出力ページ数を入力します。入力範囲は、1,000～1,000,000ページです。

補足　ページ数は、ジョブのプリント終了時に加算されます。プリントの途中で入力した出力ページ数を超えても、プリントが終了するまで通知されません。

●通知を行う経過時間

キャリブレーションの通知が行われる経過時間を入力します。入力範囲は、24～720時間です。

補足　時間は、OSの日付と時刻を参照しています。(ServerManagerの起動時間の合計ではありません)

■キャリブレーション実施時の通知設定

●メール送信する

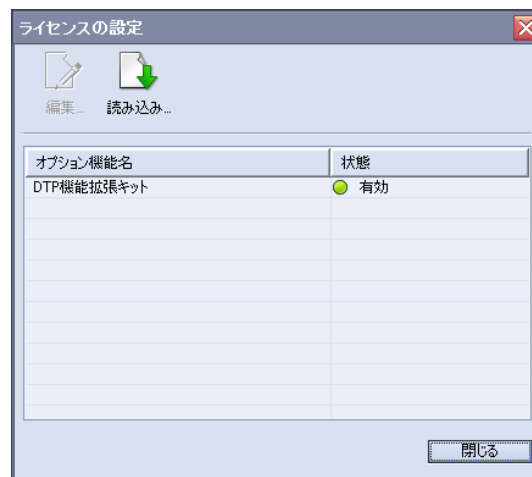
チェックマークを付けると、キャリブレーションファイルを保存したとき、[メールアドレス]に入力したアドレスにメールが送信されます。

●メールアドレス

メールアドレスを128バイト以内で入力します。半角スペース、またはセミコロン「;」で区切ると、複数のアドレスを入力できます。

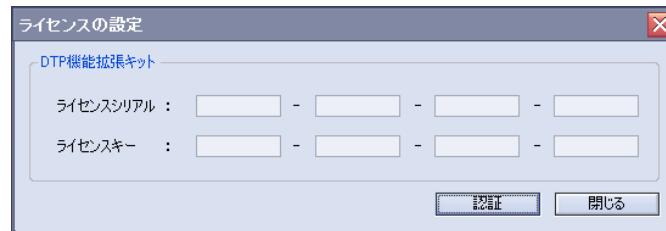
ライセンスの設定

ServerManagerの[システム]→[初期設定]→[ライセンスの設定]を選択します。

- ライセンスが設定できるのは、Print ServerのServerManagerに管理者モードでログインしている場合だけです。
- 一般ユーザーとしてログインしている場合は、設定された情報の参照だけできます。
- ログインしていない場合は、[ライセンスの設定]は選択できません。

■オプション機能名

設定可能なオプション機能の名称と、ライセンスの設定状態が表示されます。オプション名をクリックして、設定するオプション名を選択します。

■編集

設定するオプション名を選択し、［編集］をクリックすると、［ライセンスの設定］ダイアログボックスが表示されます。

●ライセンスシリアル

12桁の数字を入力します。

●ライセンスキー

16桁の英数字を入力します。

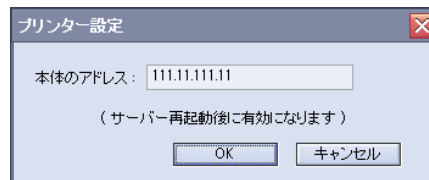
■読み込み

ライセンスファイルを読み込みます。1度に複数のオプションのライセンスの設定を行うことができます。

プリンター設定

ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［プリンター設定］を選択します。
プリンターのIPアドレス（＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式）、またはDNS名を入力します。

- 常にプリンター側の設定と一致している必要があります。プリンター側の設定を変更したときは、同様に変更してください。
- 変更した設定は、Print Serverを再起動するまで有効になりません。

プリンター情報の表示については、プリンターに同梱されているCD内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

●本体のアドレス

IPアドレス（＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式）、またはDNS名を入力します。

1.2.3 ユーザー管理

Web セキュリティの設定内容によっては、WebManager を利用するユーザーを ServerManager に登録しておく必要があります。
ServerManager にログインするための管理者、および一般ユーザー用パスワードを変更します。
詳細は、以下の説明を参照してください。

・「ユーザーの追加」(P.49)
・「登録したユーザーの変更」(P.50)
・「登録したユーザーの削除」(P.50)
・「ServerManager起動時の自動ログイン」(P.51)
・「手動でのログイン/ログオフ」(P.51)

ユーザーの追加

操作手順

1. ServerManagerの［管理］→［ユーザー管理］を選択します。
2. ［追加］をクリックします。

リストには、Administrator、Users、および登録済みのユーザーが表示されます。

・アカウントに登録済みのAdministratorとUsersは特別なユーザーです。ServerManagerにログインする場合や［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合には、Administrator、およびUsersのパスワードを使用します。
・Administrator、およびUsersのパスワードを変更する場合は、「登録したユーザーの変更」(P.50) を参照してください。

■Webセキュリティ

WebManager でのジョブに対する操作を制限できます。ここでの選択は、Administrator 以外の登録されているユーザーすべてに対して制限されます。

●全て操作可

自分のジョブだけでなく、ほかのジョブに対しても操作できます。ジョブの移動などもできます。

●ジョブのオーナーのみ操作可

自分のジョブに対してだけ操作します。

●全て操作不可

ジョブに対する操作は一切できません。

3. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

複数のユーザーを登録する場合は、登録する人数分だけ手順2～3を繰り返します。

● ユーザー名

登録するユーザー名を入力します。ユーザー名は、WebManagerにログインするときに使用します。

［Web セキュリティ］で、［ジョブのオーナーのみ操作可］を選択しているときは、ここで登録したユーザー名でWebManager にログインしている場合だけ、そのユーザーが所有するジョブを操作できます。

補足 入力する文字は、大文字と小文字が区別されます。

● パスワード

登録するユーザーのパスワードを入力します。パスワードは、WebManager のログインに使用します。

● パスワード確認

［パスワード］と同じパスワードを入力します。

● 説明

必要に応じて入力します。入力した内容は、［ユーザー管理］ダイアログボックスに表示されます。

4. ［ユーザー管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

登録したユーザーの変更

1. ServerManagerの［管理］→［ユーザー管理］を選択します。
2. ［ユーザー管理］ダイアログボックスで、リストから変更するユーザーを選択し、［変更］をクリックします。
3. ［ユーザー編集］ダイアログボックスで、追加と同様に項目を編集します。

ユーザー名は変更できません。

管理者用のパスワードについては、『ユーザーズガイドセットアップ編』を参照してください。

登録したユーザーの削除

1. ServerManagerの［管理］→［ユーザー管理］を選択します。
2. ［ユーザー管理］ダイアログボックスで、リストから削除するユーザーを選択し、［削除］をクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

AdministratorとUsersは削除できません。

ServerManager起動時の自動ログイン

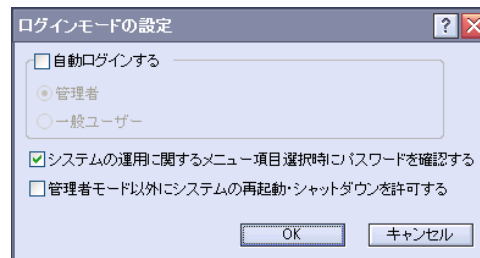
ServerManagerを起動したときに、選択したモードで自動的にログインするように設定します。
システムの運用に関するServerManagerの操作を管理者だけが行えるように設定できます。

- 自動ログインできる「管理者」は、「Administrator」です。
- 自動ログインの設定は、Print ServerのServerManagerでだけ設定できます。
- ServerManagerに管理者、および一般ユーザーモードでログインしているときは、ServerManagerの左上のサーバー名横に「管理者モード」、および「一般ユーザーモード」と表示されます。ログインしていないときは、「ログオフ」と表示されます。

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［その他の設定］を選択します。

   ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2. ServerManagerを起動時に自動ログインする場合は、［自動ログインする］にチェックマークが付いていることを確認し、ログインするモードを選択して、［OK］をクリックします。

- **システムの運用に関するメニュー項目選択時にパスワードを確認する**
  チェックマークを付けると、システムの運用に関するメニュー項目を選択したときに、管理者用パスワードが要求されます。
- **管理者モード以外にシステムの再起動・シャットダウンを許可する**
  チェックマークを付けると、管理者モード以外でのシステムの再起動とシャットダウンを許可します。

手動でのログイン/ログオフ

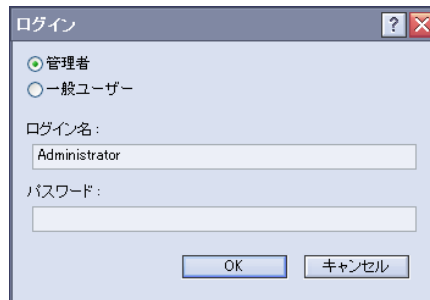
◆ServerManagerを終了させないでログオフする場合

［ログオフ］（管理者モードのとき）、または［ログオフ］（一般ユーザーモードのとき）、または［システム］メニューから［ログオフ］を選択します。

◆ログオフ状態からログインする場合

操作手順

1. ServerManagerの［ログイン］、または［システム］→［ログイン］を選択します。

2. ［ログイン］ダイアログボックスで、［管理者］、または［一般ユーザー］を選択します。

3. ［パスワード］を入力し、［OK］をクリックします。

管理者、および一般ユーザー用パスワードは、ServerManager の［ユーザー管理］に表示される、［Administrator］、および［Users］のパスワードと同じです。
「一般ユーザー」のパスワードのデフォルトは、「aaaaa」です。

「管理者」のパスワードについては、『ユーザーズガイドセットアップ編』を参照してください。

1.2.4　作業用フォルダーの設定

作業用フォルダーには、以下の種類があります。各フォルダーの場所は、変更できます。

■ファイル保存フォルダ

ジョブのイメージを保存するフォルダーです。

プリントオプションの［プリフライト］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択し、ファイルをプリントすると、作成されたファイルが格納されます。

［ファイル保存フォルダ］を使うには、共有の設定が必要です。設定については、『ユーザーズガイド運用編』の「7.3.2 フォルダーの共有」を参照してください。

■ホットフォルダ

ホットフォルダを利用してFTPから送信したジョブを格納するフォルダーです。

ServerManagerで［ホットフォルダ］を使用する設定になっている場合は、このフォルダーの下に「folder1」が作成され、さらにこのフォルダーの下にサブフォルダーが作成されます。

サブフォルダーで、ジョブの受信が完了すると、プリント処理が開始されます。

■スプールフォルダ

ジョブのスプール用のフォルダーです。

［ファイル保存フォルダ］、および［スプールフォルダ］の変更前の作業用フォルダーの内容は、変更後の作業用フォルダーに自動で複製されます。

■メールボックス

送受信メールのスプール用フォルダーです。

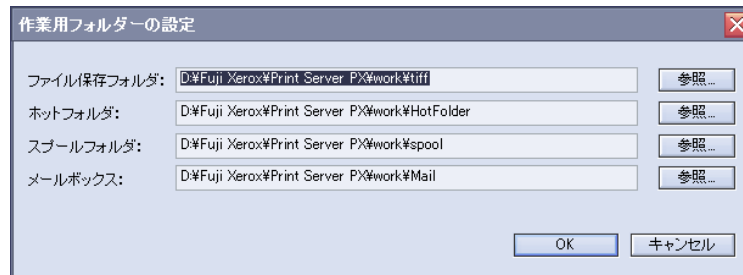
メールボックスフォルダーの変更前の作業用フォルダーの内容は、変更後の作業用フォルダーに自動で複製されます。

作業用フォルダーの変更

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［作業用フォルダーの設定］を選択します。

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2. 作業用フォルダーを設定し、［OK］をクリックします。

作業用フォルダーを変更する場合は、［参照］をクリックしてフォルダーを選択するか、フォルダー名を直接入力します。

3. 確認のダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

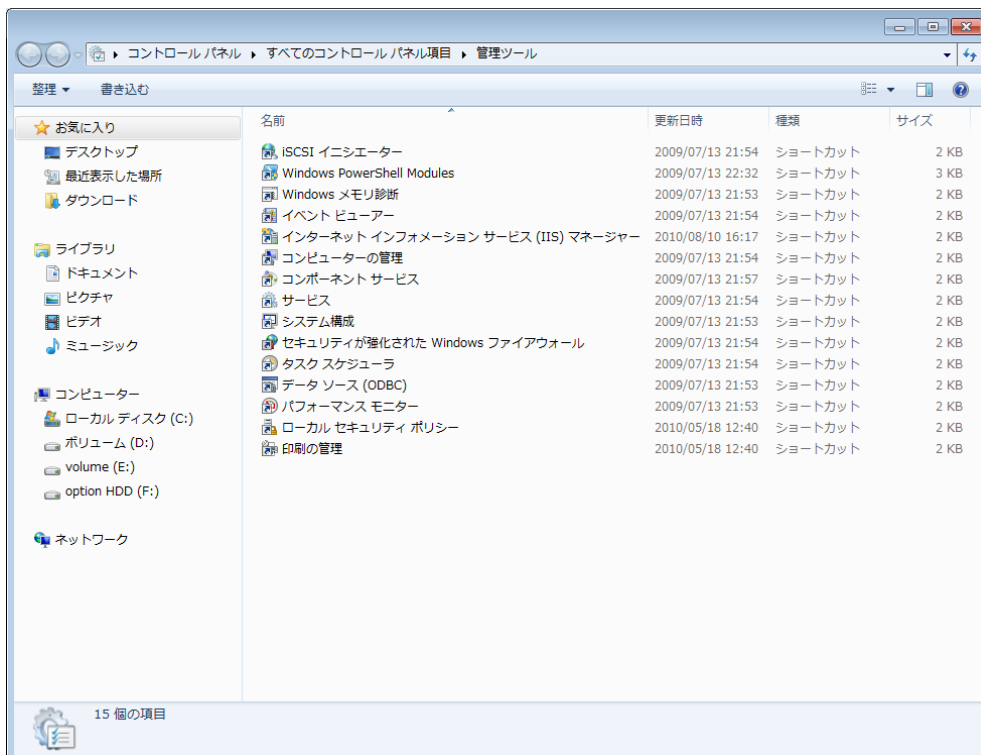
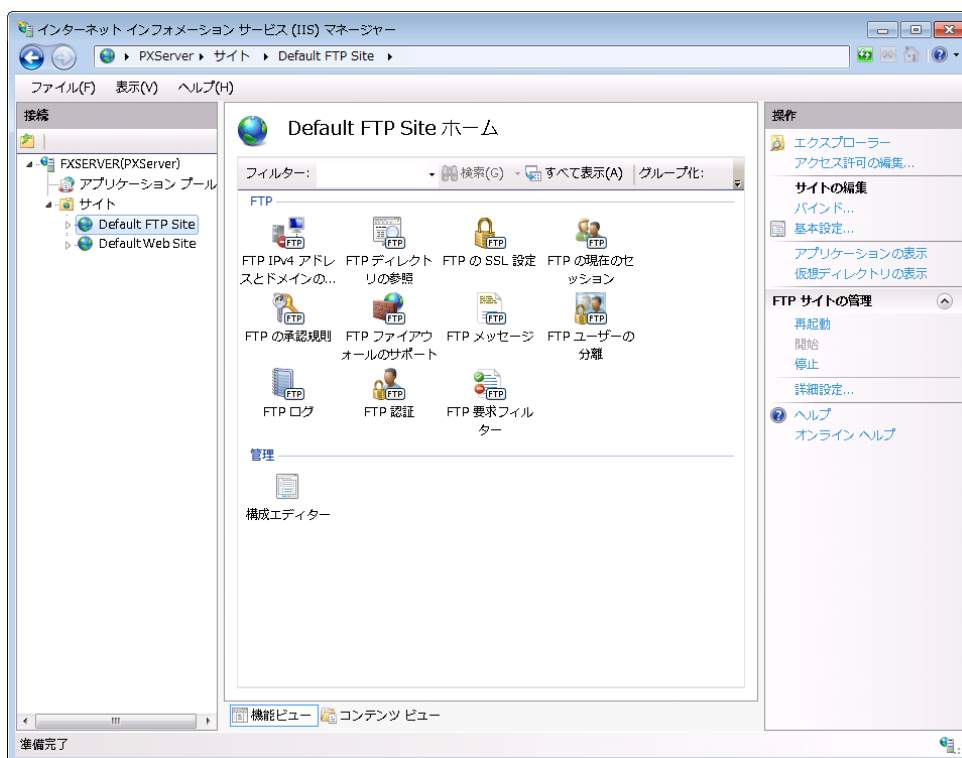
作業用フォルダーが設定された場所に変更されます。

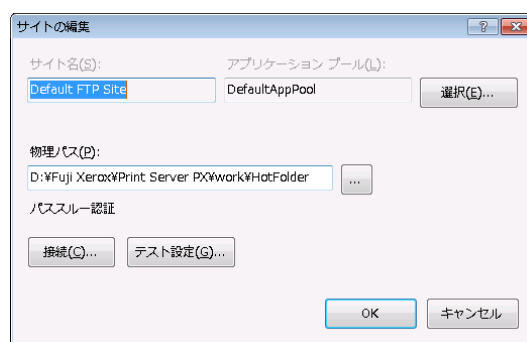
◆ホットフォルダを使用する場合

ホットフォルダを変更した場合は、続いて、FTPサービスのフォルダーを変更します。

4. Windowsの［スタート］→［コントロールパネル］を選択します。

5. ［管理ツール］をクリックします。

6. ［インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャー］をダブルクリックします。

7. 左側のツリーから、Print Serverに設定したホスト名（デフォルトでは「FXSERVER」）をダブルクリックし、［サイト］→［Default FTP Site］を選択します。

8. ［操作］の［基本設定］を選択します。

9. ［物理パス］に手順 2 で設定した［ホットフォルダ］のフォルダーの場所を入力し、［OK］をクリックします。

1.3 設定情報をバックアップする

Print Server の設定情報をバックアップしておくと、万一トラブルが起きたとき、再設定の時間を短縮できます。安全のため、システムのバックアップの作成をお勧めします。

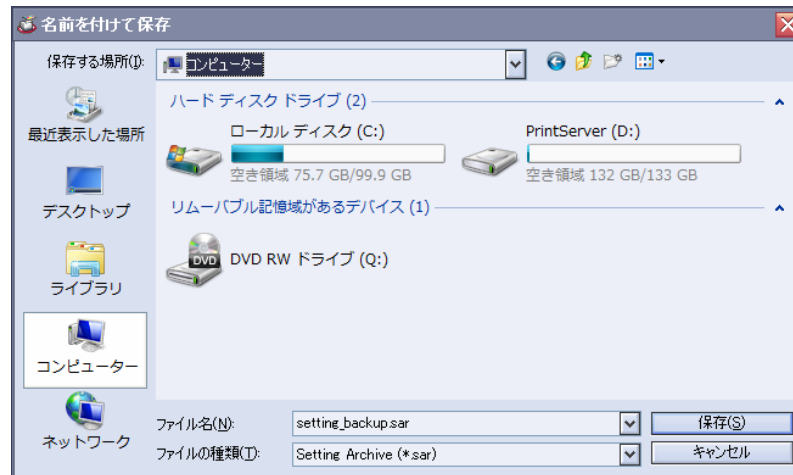
設定情報をバックアップすると、以下の情報が1つのファイルにまとめられます。

- プリント履歴の表示/保存/プリント
- 長さの単位
- キャリブレーション設定、キャリブレーションプロファイル
- 特色の管理
- ジョブ履歴の設定
- プリントジョブの設定
- ボックスの設定
- ユーザー管理
- ページ番号設定ファイルの管理
- アドレス帳
- 保存・接続先の管理
- サーバーの通信設定
- 初期設定-その他の設定
- カラー調整ファイルの管理
- 論理プリンタの管理
- オプションメモの設定
- プリントオプションテンプレートの管理
- ライセンスの設定
- ウォーターマーク管理
- キャリブレーションの通知設定
- プリンター設定

設定情報のバックアップ

操作手順

1. ServerManagerの［システム］→［バックアップ］→［設定をバックアップ］を選択します。
   - ［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。
   - クライアントコンピューターから指示した場合は、［設定のバックアップの作成先］ダイアログボックスが表示されるので、保存するコンピューターを選択し、［OK］をクリックします。

2. 保存する場所とファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

・ファイルの拡張子は、「.sar」です。
・保存したファイルは、クライアントコンピューターのHDDなどにバックアップします。

設定情報のバックアップの復帰

1. ServerManagerの［システム］→［バックアップ］→［設定をリストア］を選択します。
2. クライアントコンピューターから指示した場合は、［設定のバックアップの復帰元］ダイアログボックスで、復元するデータが保存されているコンピューターを選択し、［OK］をクリックします。
3. ［ファイルを開く］ダイアログボックスで、復元する場所とファイル名を入力し、［開く］をクリックします。

クライアントコンピューターの設定

プリンタードライバーなど、クライアントコンピューターが使うソフトウエアのインストール方法について説明しています。

2.1 動作環境について

Print Serverのソフトウエアを使用するには、以下のハードウエアとソフトウエアがクライアントコンピューターに必要です。

●各OS共通の必要動作環境

・ハードディスクドライブ

・Print Serverとの接続用に整備されたネットワーク環境

ネットワーク環境については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

●OSにより異なる必要動作環境

サポートOS	ハードウエア	対応ブラウザー
Mac OS Classic ・Mac OS 9.2.2	Power PC プロセッサーを搭載したAppleコンピューター	・Internet Explorer 5.1.7 ・Netscape 7.0.2
Mac OS X ・Mac OS X 10.3.9、10.4.11、10.5.8、および10.6.1以降	Power PC プロセッサー、またはIntelプロセッサーを搭載したAppleコンピューター	・Safari 1.3.2（Mac OS X 10.3.9） ・Safari 4.0（Mac OS X 10.4.11） ・Safari 5.0（Mac OS X 10.5以降） ・Firefox 2.0（Mac OS X 10.3.9） ・Firefox 3.6（Mac OS X 10.4.11） ・Firefox 4.0（Mac OS X 10.5以降）
・Microsoft Windows XP SP3 ・Microsoft Windows XP x64 SP3 ・Microsoft Windows Vista ・Microsoft Windows Vista x64 ・Microsoft Windows 7 ・Microsoft Windows 7 x64 ・Microsoft Windows Server 2003 ・Microsoft Windows Server 2003 x64 ・Microsoft Windows Server 2003 R2 ・Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 ・Microsoft Windows Server 2008 ・Microsoft Windows Server 2008 x64 ・Microsoft Windows Server 2008 R2 x64	Pentium 100MHz 以上のプロセッサーを搭載したIBM AT、またはPS/2（または100%互換）コンピューター	・Internet Explorer 8.0 ・Internet Explorer 9.0（Microsoft Windows Vista以降） ・Firefox 4.0 ・Safari 5.0

Microsoft Windows XP SP3では、文字化けが発生することがあります。その場合は、以下の手順で文字化けを解決できます。

1. 以下のURLにアクセスします。
   http://www.fujixerox.co.jp/download/postscript/notes_sp3_2.html
2. 「Adobe® PostScript® 3プリンタードライバーバージョンチェックツール」をダウンロードします。
3. 動作中のアプリケーションをすべて終了し、ダウンロードした「PSVCheck.exe」をダブルクリックします。
4. 画面の指示に従って、モジュールをアップデートします。
5. コンピューターを再起動します。

互換ハードウエアについては、各OSの説明書を参照してください。

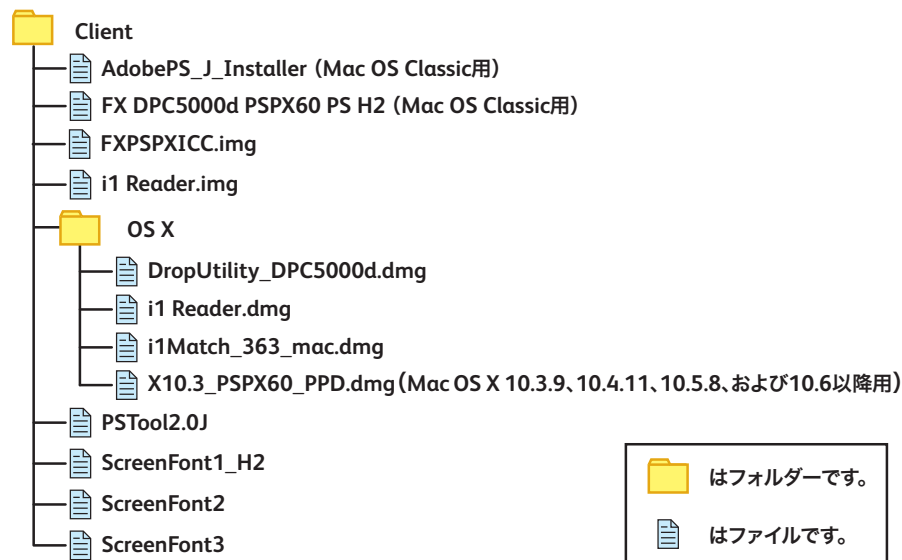
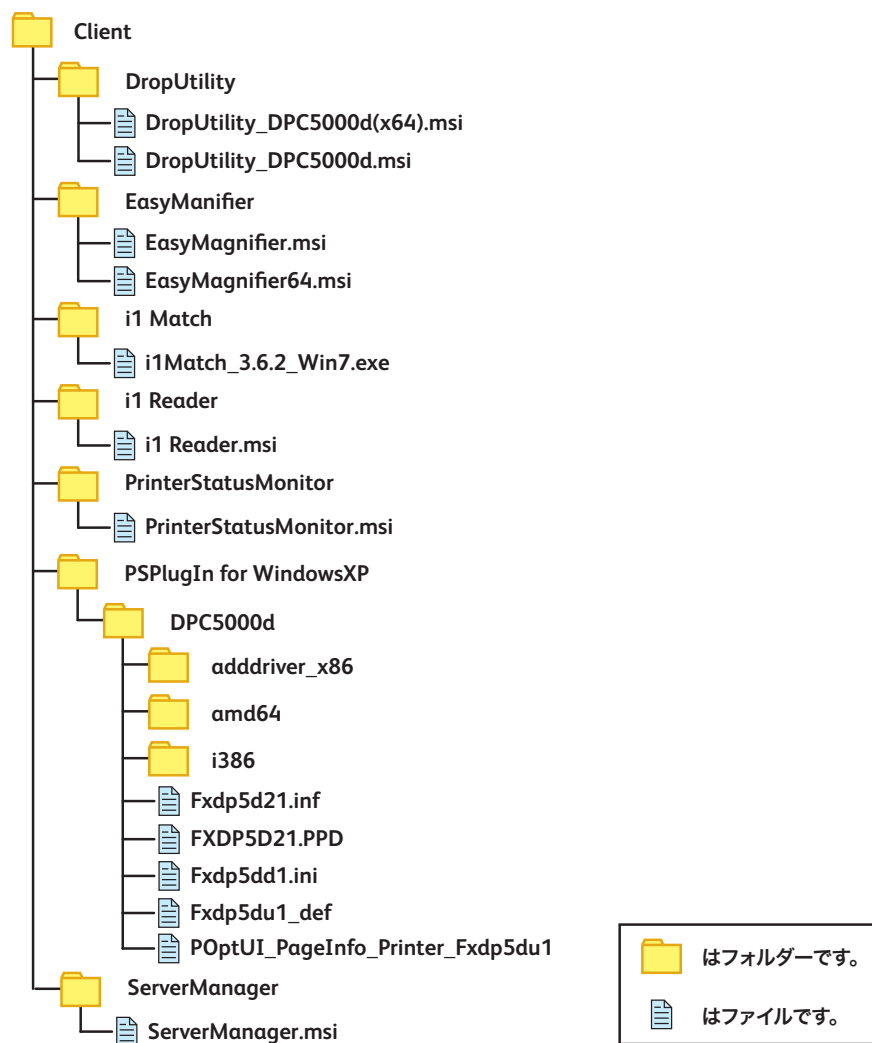
2.2　ソフトウエアを入手する

クライアントコンピューターで使用するプリンタードライバーなどの各種ソフトウエアは、以下の方法で入手できます。

・Print Server本体に同梱されているDVDからインストールする
・WebManagerを使って、Print Serverからダウンロードする

2.2.1　DVDからのインストール

同梱されているDVDには、以下のファイルやフォルダーが含まれています。

◆Macintoshクライアント

◆Windowsクライアント

ソフトウエアをインストールする場合は、該当するクライアントコンピューターの項目を参照してください。

・「2.4.1 Mac OS Xクライアント」（P.80）
・「2.4.2 Windowsクライアント」（P.81）

2.2.2　Print Serverからのダウンロード

◆ソフトウエアの種類

ダウンロードできるソフトウエアは、以下のとおりです。

ソフトウエアの種類	Macintosh		Windows
	Classic	Mac OS X	
ServerManager	―	―	○
プリンタードライバー	○	―	―
プリンタードライバープラグイン	―	○	○
スクリーンフォント（1/2/3）	○	―	―
DropUtility	―	○	○
PrinterStatusMonitor	―	―	○
EasyMagnifier	―	―	○
ICCプロファイル	○	―	○

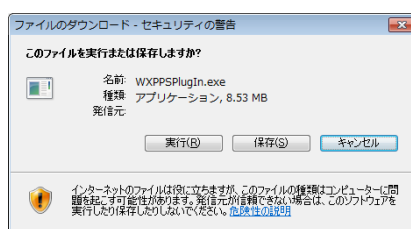
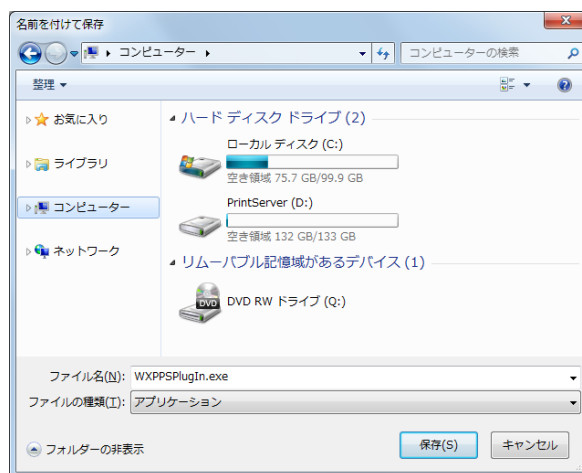
Windows 7でInternet Explorer 8.0を使用する場合を例に、Print Serverからソフトウエアをダウンロードする手順を説明します。

操作手順

1. Internet Explorerを起動します。
2. アドレス欄に、Print ServerのIPアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
3. ［ダウンロード］タブをクリックします。

4. 左側のフレームから、該当するOSをクリックします。

5. 右側のフレームから、ダウンロードするソフトウエアをクリックします。

6. ［保存］をクリックします。

7. 保存する場所とファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

ソフトウエアのダウンロードが開始されます。

続いて、ソフトウエアをインストールする場合は、該当するクライアントコンピューターの項目を参照してください。

・「2.4.1 Mac OS Xクライアント」（P.80）
・「2.4.2 Windowsクライアント」（P.81）

2.3　プリンターを設定する

ここでは、クライアントコンピューターにプリンタードライバー、またはプリンター記述ファイル（PPD）をインストールする手順について説明します。

Macintosh（Mac OS Classic、Mac OS X）クライアントとWindowsクライアントで、インストール方法が異なります。

2.3.1　Mac OS Classicクライアント

Mac OS Classic対応のプリンタードライバーをインストールします。

Mac OS Xにインストールする場合は、「2.3.2 Mac OS Xクライアント」（P.68）を参照してください。

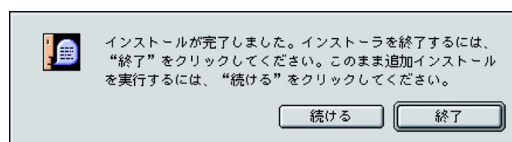
操作手順

1. ダウンロードした「AdobePS_J_Installer.hqx」をダブルクリックします。

   ファイルが解凍され、インストーラーが起動します。

2. ［続ける］をクリックし、インストールを続行します。
3. エンドユーザーライセンス契約書画面で、［同意］をクリックします。
4. インストールの場所を選択し、［インストール］をクリックします。

   インストールが開始されます。

5. インストーラーを終了するためのウィンドウで、［続ける］をクリックします。

6. ダウンロードした圧縮ファイル（「CLASSIC_PSPX60_FXPPD.hqx」）をダブルクリックします。

   ファイルが解凍されます。

7. 解凍されたプリンター記述ファイル（「FX DPC5000d PSPX60 PS H2」）を［システムフォルダ］→［機能拡張］→［プリンター記述ファイル］に移動します。

   なお、プリントする場合は、セレクタでプリンターを作成する必要があります。続いて、「プリンターの作成」（P.66）に進みます。

プリンターの作成

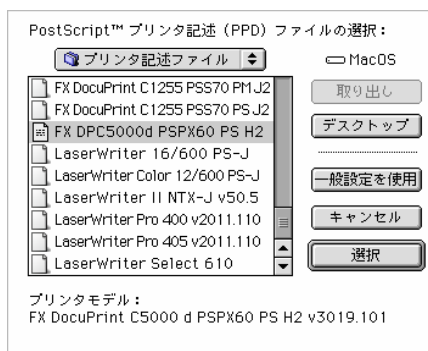
操作手順

1. アップルメニューから［セレクタ］を選択します。
2. ［セレクタ］ダイアログボックスの右下にある「AppleTalk」が［不使用］になっている場合は、［使用］を選択し、［AdobePS］アイコンを選択します。

3. ［AppleTalk ゾーン］から、Print Serverが存在するゾーンを選択し、画面右側の［PostScriptプリンタの選択］に表示されたリストから、Print Serverを選択します。

Print ServerのコンピューターーやAppleTalkゾーン名がわからない場合は、使用しているネットワーク管理者に確認してください。

4. ［作成］をクリックします。

5. ［FX DPC5000d PSPX60 PS H2］を選択し、［選択］をクリックします。

- スプールオプションやキャリブレーションなどその他のプリンター固有機能を設定する場合には、あらかじめPrint Serverの出力先論理プリンタのプリントオプションテンプレートの設定を変更してください。
- PPDファイル使用時に、プリンタードライバーで設定できるプリンター固有機能は、以下のとおりです。

プリントオプション項目		FX DPC5000d PSPX60 PS H2
カラー	カラーモード	○
カラー＞カラー詳細（RGB設定）	RGB色補正	○
カラー＞カラー詳細（CMYK設定）	CMYK色補正	○
	CMYKシミュレーション	○
画質	プリンタモード	○
	コンポジットオーバープリント	○
	原稿タイプ-画像/文字	○
用紙/ページ	部数	○
	用紙トレイ	○
	原稿ページ範囲	○
用紙/ページ＞用紙設定	用紙種類	○
出力方法	両面	○
	スプールオプション	○
排出/フィニッシング/両面	両面	○
	ソートする（1部ごと）	○
	最終ページから印刷	○

6. ［セレクタ］ダイアログボックスを閉じます。

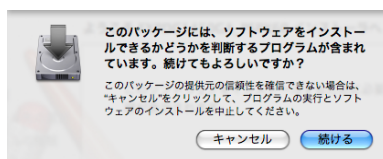
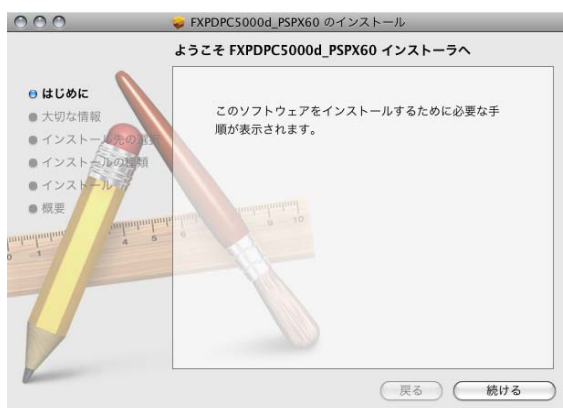
2.3.2 Mac OS Xクライアント

Mac OS X（10.3.9、10.4.11、10.5.8、および10.6以降）用プリンタ記述ファイル（PPD）をインストールします。ここでは、Mac OS X 10.5の画面を例に説明します。

操作手順

1. 「X10.3_PSPX60_PPD」フォルダー内の「FXPSPX_DPC5000d_V60.pkg」アイコンをダブルクリックします。

   「X10.3_PSPX60_PPD」フォルダーは、ダウンロードした「X10.3_PSPX60_PPD.dmg」を解凍すると表示されます。

2. ［続ける］をクリックします。

3. ［続ける］をクリックします。

4. ［続ける］をクリックします。

   ［インストール先を選択］ダイアログボックスが表示された場合は、インストールするドライブを選択し、［続ける］をクリックします。

5. ［インストール］をクリックします。

6. 管理者の名前とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

インストールが開始されます。

7. インストールが終了したら、［閉じる］をクリックします。

PPDのインストールは完了です。

なお、プリントする場合は、［システム環境設定］の［プリントとファクス］でプリンターを作成する必要があります。続いて、「プリンターの作成」（P.70）に進みます。

プリンターの作成

Bonjour 機能を使用して、プリンターを追加することもできます。Bonjour 機能については、「2.3.4 Bonjour機能」(P.79)を参照してください。

操作手順

1. [システム環境設定]で[プリントとファクス]アイコンをクリックします。
2. [+]をクリックします。

3. 接続方法に合わせて、タブをクリックします。

◆[AppleTalk]を使用する場合(Mac OS X 10.6を除く)

1. [AppleTalk]タブをクリックします。
2. Print Serverが属しているゾーンを選択し、リストからPrint Serverを選択します。

3. [追加]をクリックします。

◆［IP］を使用する場合

1. ［IP］タブをクリックします。

2. ［プロトコル］に［LPD（Line Printer Daemon）］が選択されていることを確認し、［アドレス］にPrint ServerのIPアドレスを、［キュー］にPrint ServerのTCP/IPの論理プリンタの設定名を入力します。

3. 必要に応じて、［名前］と［場所］を入力します。

4. ［ドライバ］で［使用するドライバを選択］を選択し、プリンターの一覧から［FX DocuPrint C5000 d PSPX60 PS H2 v3019.101］を選択します。

5. ［追加］をクリックします。

4. ［プリントとファクス］ダイアログボックスを閉じます。

2.3.3　Windowsクライアント

プリンタードライバーのインストールは、共有プリンターを使う場合と使わない場合で異なります。

・「共有プリンターを使う場合」（P.73）
・「共有プリンターを使わない場合」（P.75）

Bonjour 機能を使用して、プリンターを追加することもできます。Bonjour 機能については、「2.3.4 Bonjour機能」（P.79）を参照してください。

インストールの前に、あらかじめ、プリンタードライバープラグインをダウンロードしておきます。

プリンタードライバープラグインについては、「2.2 ソフトウエアを入手する」（P.61）を参照してください。

ドライバーをインストールする前に、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。正しくインストールできないことがあります。

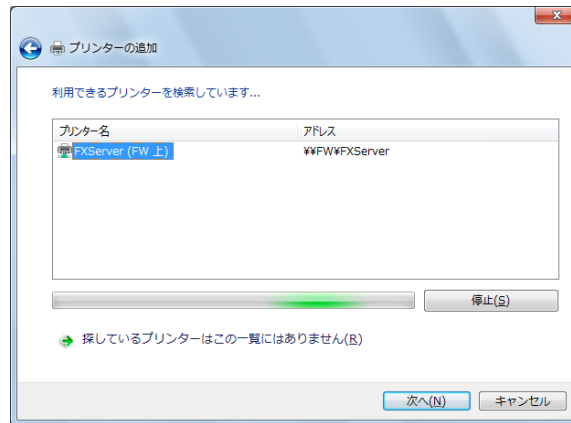
ここでは、Windows 7の画面を例に説明します。

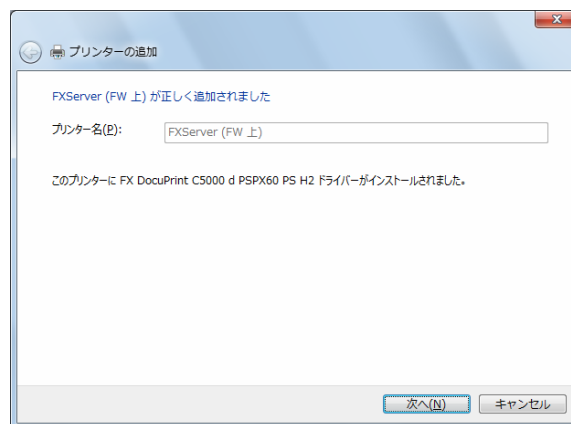
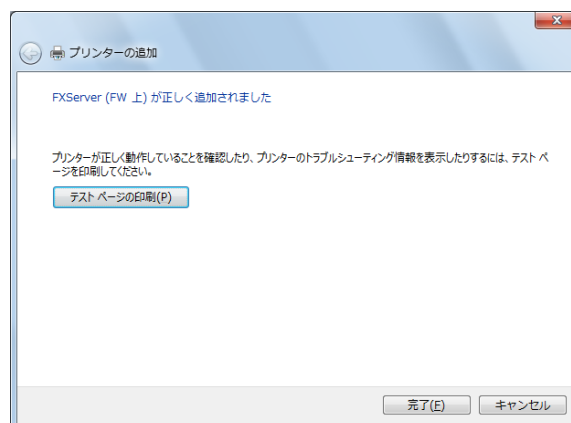
- プリンタードライバーのインストールは、管理者権限を持つユーザーアカウントで行ってください。
- Print Serverでは、セキュリティ対策として、デフォルトでは、使用していないTCP/IPポートを閉じています。そのため、NetBIOS over TCP/IPも閉じています。Windowsネットワークでの共有プリンター出力、Tiffフォルダー共有、ホットフォルダプリントを使用する場合は、Print Serverで、Windowsに管理者権限を持つユーザー名でログインし、［スタート］→［コントロールパネル］→［Windows ファイアウォール］→［Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する］で、［ファイルとプリンターの共有］と［Fuji Xerox AFP Service］の［ホーム/社内（プライベート）］にチェックマークを付けてください。

共有プリンターを使う場合

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［デバイスとプリンター］を選択します。
2. ［プリンタの追加］をクリックします。
3. 「ネットワーク、ワイヤレスまたはBluetoothプリンターを追加します」をクリックします。

4. 共有プリンターの一覧からプリンターを選択し、［次へ］をクリックします。

補足　Print Server に登録されているユーザー名と同じユーザー名でクライアントコンピューターにログインしている場合、［ユーザー認証］ダイアログボックスが表示されます。この場合、ネットワーク管理者に確認して、ユーザー名、パスワードを入力してください。

5. ［次へ］をクリックします。

6. ［完了］をクリックします。

共有プリンターを使う場合のドライバーのインストールは完了です。

共有プリンターを使わない場合

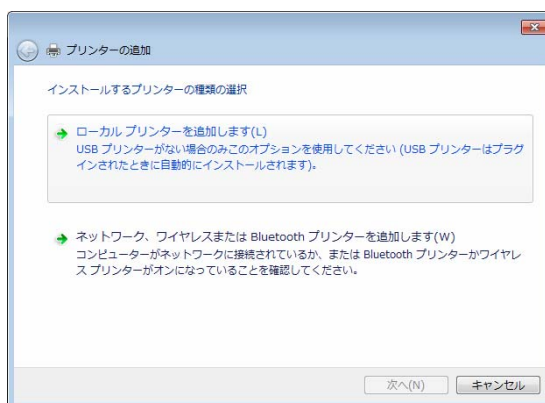
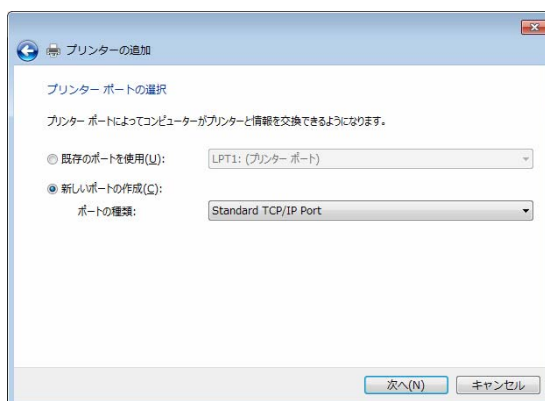
ここでは、Standard TCP/IPを使用する場合を例に説明します。

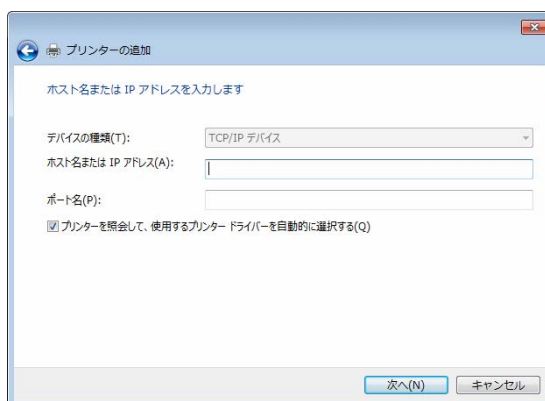
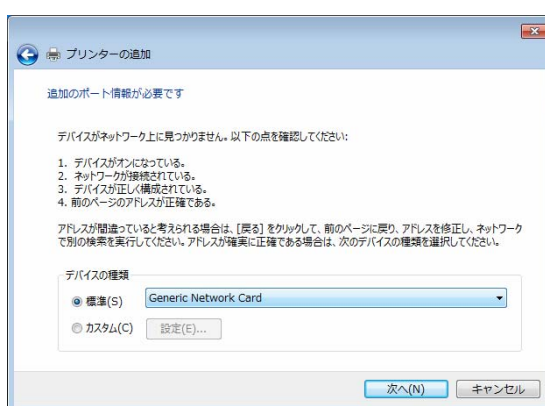
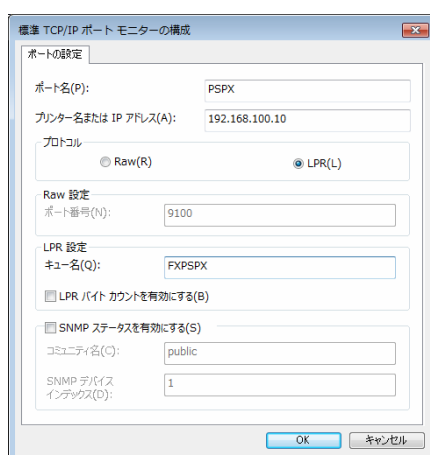
LPR Portを使用してプリントする場合は、クライアントコンピューターに「UNIX用印刷サービス」がインストールされていることを確認します。

- LPR Portを使用すると、プリントに時間がかかることがあります。その場合は、Standard TCP/IP Portを使用してプリントしてください。
- LPR Portを使用してプリントするには、「UNIX用印刷サービス」がインストールされている必要があります。

操作手順

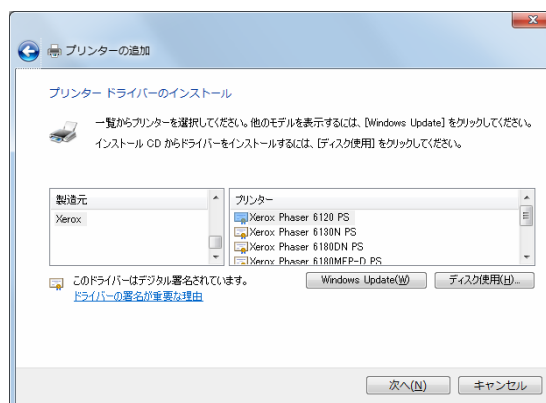
1. Windowsの［スタート］→［デバイスとプリンター］を選択します。
2. ［プリンタの追加］をクリックします。

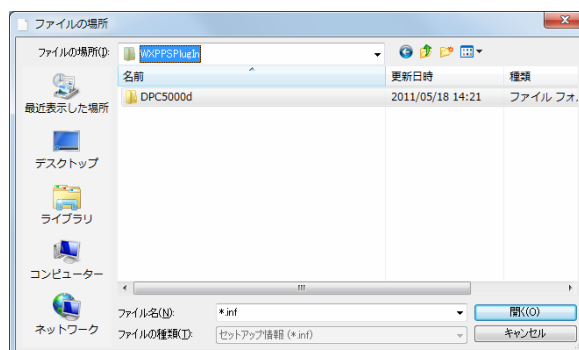
   ［プリンタの追加］ダイアログボックスが表示されます。
3. ［ローカルプリンターを追加します］をクリックします。

4. ［新しいポートの作成］を選択し、［ポートの種類］で［Standard TCP/IP Port］を選択して、［次へ］をクリックします。

補足　「UNIX用印刷サービス」を使用する場合は、［LPR Port］を選択してください。

5. ［ホスト名またはIPアドレス］にPrint ServerのIPアドレス、［ポート名］にPrint ServerのTCP/IP論理プリンタの設定名を入力し、［次へ］をクリックします。

6. ［デバイスの種類］で［カスタム］を選択し、［設定］をクリックします。

7. ［プロトコル］で［LPR］を選択し、［LPR設定］の［キュー名］にPrint ServerのTCP/IP論理プリンタの設定名（ここでは「FXPSPX」）を入力して、［OK］をクリックします。

補足
- ［LPRバイトカウントを有効にする］のチェックマークは外してください。
- Rawモードはサポートしていません。

8. ［プリンターの追加］ダイアログボックスで、［次へ］をクリックします。

9. ［完了］をクリックします。

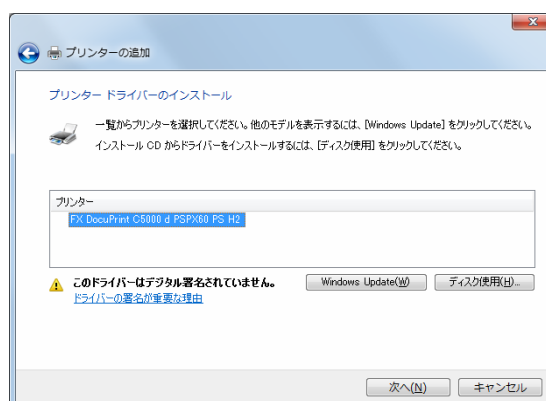
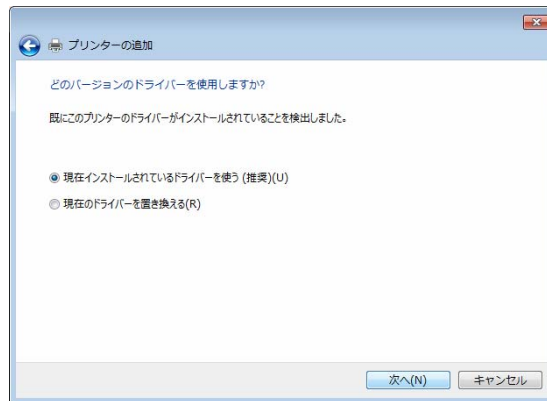
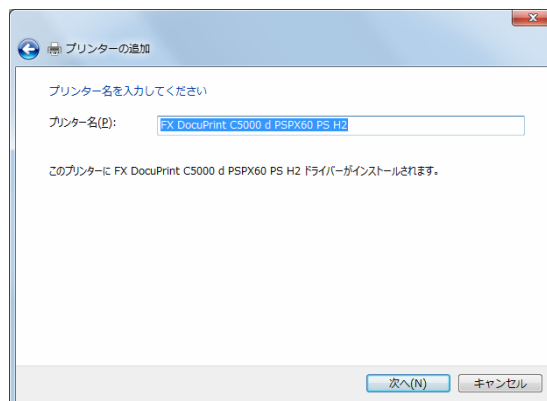
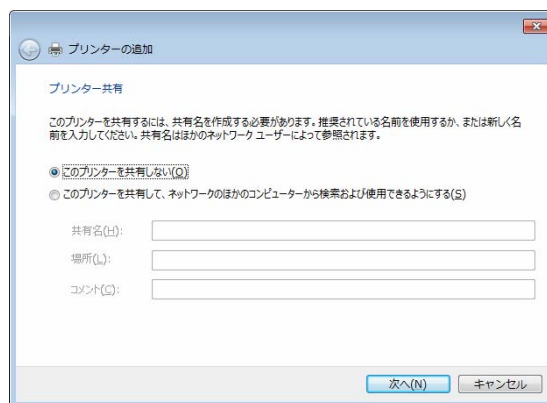
10. ［ディスク使用］をクリックします。

11. ［フロッピーディスクからインストール］ダイアログボックスで、［参照］をクリックします。

12. ［WXPPSPlugIn］→［DPC5000d］フォルダーを選択し、［開く］をクリックします。

「DPC5000d」フォルダーは、以下のどれかのフォルダー内のものを使用してください。

- DVD内の「Client」フォルダー内の各OSのバージョンに対応したPSPlugIn
- 「WXPPSPlugIn.exe」を展開した「WXPPSPlugIn」

13. 開いたフォルダー内のファイルを選択し、［開く］をクリックします。

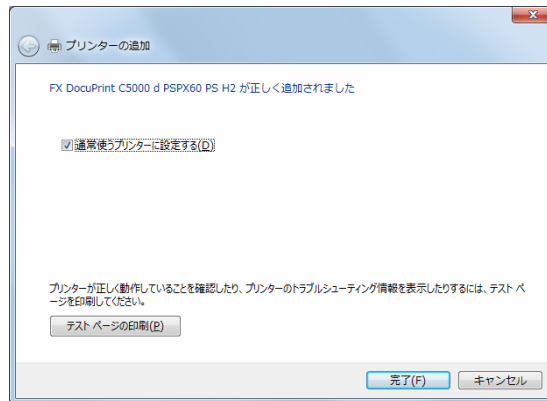
［フロッピーディスクからインストール］ダイアログボックスが表示されたら、［OK］をクリックします。

14. ［FX DocuPrint C5000 d PSPX60 H2］を選択し、［次へ］をクリックします。

15. 「次へ」をクリックします。

16. ［次へ］をクリックします。

17. 必要に応じて、以下の設定をして、［次へ］をクリックします。

◆プリンターを共有する場合

［このプリンターを共有して、ネットワークのほかのコンピューターから検索および使用できるようにする］を選択し、［共有名］、［場所］、および［コメント］を入力します。

◆プリンターを共有しない場合

［このプリンタを共有しない］を選択します。

18. Print Serverを通常使用するプリンターとして設定する場合は、チェックマークが付いていることを確認し、[完了] をクリックします。

共有プリンターを使わない場合のドライバーのインストールは完了です。

2.3.4　Bonjour機能

IPネットワーク上のデバイスやサービスなどを自動的に検出するBonjour機能により、プリンターの追加が簡単にできます。

- Bonjour機能を使用してのプリンターの追加は、プリンタードライバーを設定したあとに行ってください。
- Bonjour機能を使用するには、プリンターを設定するクライアントコンピューターとPrint Serverが同一のサブネット内に接続されている必要があります。
- Bonour機能を使用するときは、可能な限り、Print Serverに固定のIPアドレスを割り当ててください。

プリンターの追加

◆Mac OS Xクライアント

以下の手順は、Mac OS X 10.5の例です。

1. [システム環境設定] で [プリントとファクス] アイコンをクリックします。
2. [+] をクリックします。
3. [デフォルト] タブをクリックします。
   Bonjour機能が設定されているプリンターが表示されます。
4. プリンターを選択し、[追加] をクリックします。

◆Windowsクライアント

「Bonjour for Windows」がインストールされていることを確認します。

インストールされていない場合は、Apple Inc. の Web サイトからダウンロードして、インストールしてください。

以下の手順は、Windows 7の例です。

1. デスクトップの「Bonjour プリンター ウィザード」アイコンをクリックします。
   Bonjour機能が設定されているプリンターが表示されます。

補足　Windows の [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [Bonjour] → [Bonjour プリンター ウィザード] を選択しても、起動できます。

2. プリンターを選択し、[次へ] をクリックします。
3. [完了] をクリックします。

2.4　ソフトウエアをインストールする

ここでは、Print Serverで使える各種ソフトウエアをインストールする手順について説明します。

ソフトウエアをインストールする前に、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。アプリケーションを起動していると、正しくインストールできない場合があります。

2.4.1　Mac OS Xクライアント

ソフトウエアのファイル名は、「DropUtility_ DPC5000d.dmg」です。

1. ダウンロードしたソフトウエアのアイコンをダブルクリックします。
   ディスクイメージが解凍され、［DropUtility_ DPC5000d］ダイアログボックスが開きます。
2. 「DropUtility_ DPC5000d.pkg」アイコンをダブルクリックします。
   インストールを続けるかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
3. ［続ける］をクリックします。
   ［ようこそDropUtility_ DPC5000dインストーラへ］ダイアログボックスが表示されます。
4. ［続ける］をクリックします。
   ［大切な情報］ダイアログボックスが表示されます。
5. ［続ける］をクリックします。
   ［"XXX"に標準インストール］ダイアログボックスが表示されます。

   XXXには、ハードディスクの名称が入ります。
6. インストールの場所を選択し、［インストール］をクリックします。
   名前とパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。
7. ［名前］と［パスワード］を入力し、［OK］をクリックします。
   インストールが開始されます。
8. ［インストールに成功しました］ダイアログボックスが表示されたら、［閉じる］をクリックします。

2.4.2　Windowsクライアント

ソフトウエアのファイル名は、以下のとおりです。
・DropUtility_DPC5000d.exe【64ビット用は、DropUtility_ DPC5000d(x64).exe】
・EasyMagnifier.exe【64ビット用は、EasyMagnifier64.exe】
・PrinterStatusMonitor.exe
・ServerManager_Installer.exe
ここでは、DropUtility をWindows 7にインストールする手順を例に説明します。

操作手順

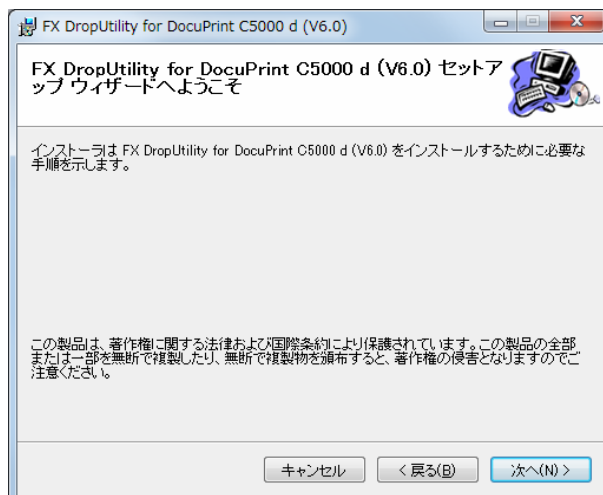
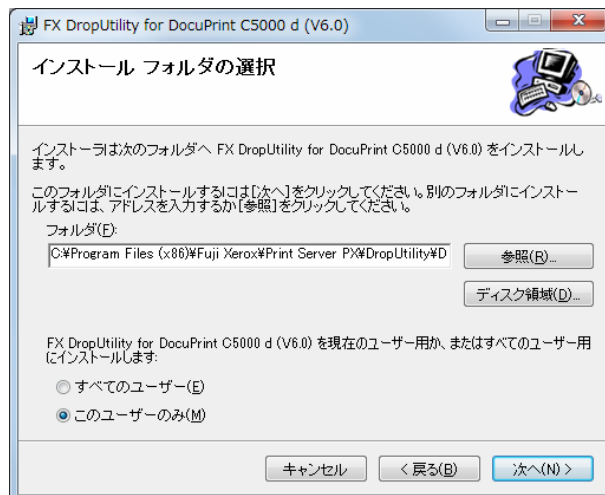
1. ダウンロードした「DropUtility_DPC5000d.exe」アイコンをダブルクリックし、ファイルを解凍します。

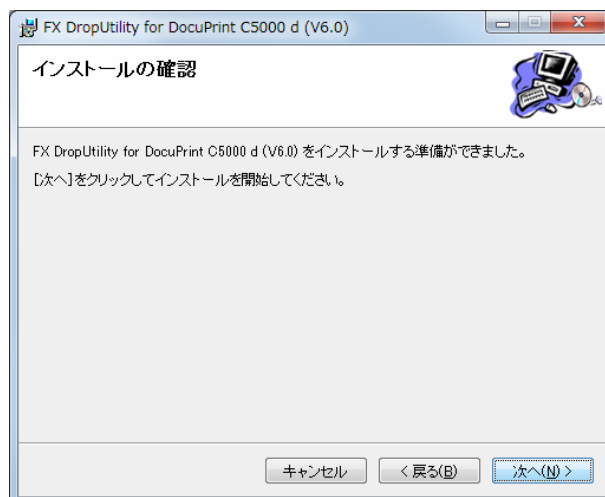
   「DropUtility_ DPC5000d」フォルダーが作成されます。

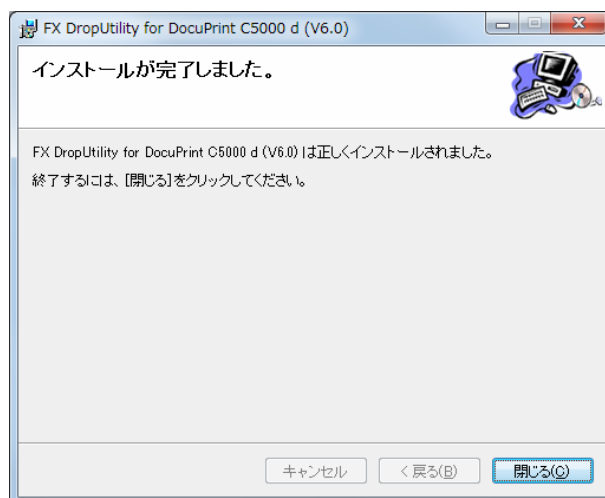
2. 「DropUtility_ DPC5000d」フォルダーにある「DropUtility_DPC5000d.msi」をダブルクリックします。

   インストーラーが起動します。

3. ［次へ］をクリックします。

4. ［次へ］をクリックします。

5. ［次へ］をクリックします。

インストール先を変更する場合は、［参照］をクリックしてフォルダーを選択するか、フォルダー名を直接入力します。

6. ［次へ］をクリックします。

インストールが開始されます。

7. インストールが終了したら、［閉じる］をクリックします。

DropUtilityのインストールは完了です。

プリントの基本操作

プリントの流れとPrint Serverの基本的な操作について説明しています。

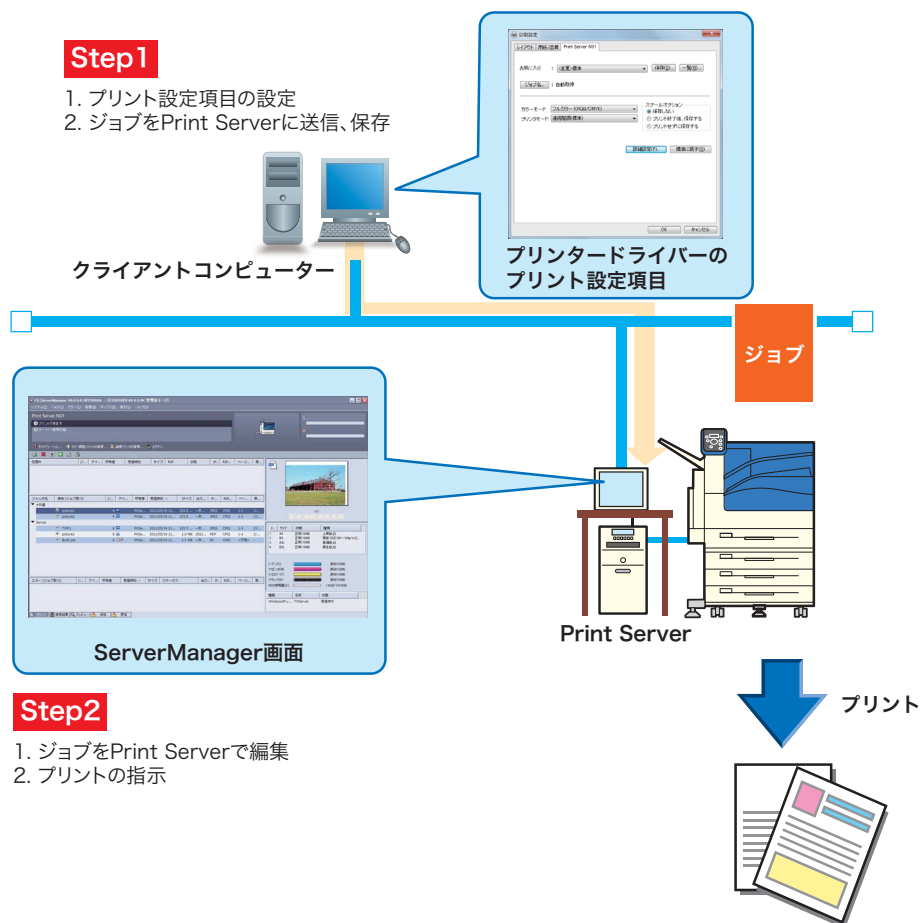
3.1　クライアントコンピューターからジョブを送信する

色の調整をはじめ、Print Serverのいろいろな機能を利用するために、ジョブをクライアントコンピューターからPrint Serverに送信し、スプールに保存します。

操作の前に以下の項目を確認してください。

・接続対象になるプリンターやソフトウエアが明確になっていること。
・Print Server を接続するために必要な製品については、ネットワーク管理者、または販売店やカタログなどからの情報によって、準備できていること。
・Print Serverのセットアップと各種設定が完了していること。(ネットワーク管理者に確認してください)
・クライアントコンピューターに、プリンタードライバーなどのソフトウエアをインストールしていること。

詳細は、「2 クライアントコンピューターの設定」(P.59)参照してください。

クライアントコンピューターからのプリントは、以下の流れで行われます。

・お客様が使用しているクライアントコンピューターやシステム構成によって、前述の流れは異なる場合があります。
・プリンタードライバーの機能だけを使用する場合、クライアントコンピューターから Print　Server にジョブを送信する必要はありません。

・詳細は、「3.2 ServerManagerで編集、プリントする」(P.89)を参照してください。
・わからない用語があったときは、『ユーザーガイド運用編』の「7.5.2 用語集」を参考にしてください。
・Print Serverの操作中にトラブルが発生したときは、『ユーザーガイド運用編』の「6.3 エラージョブメッセージについて」を参照し、対処してください。

3.1.1 Macintoshクライアント

ここでは、Mac OS X の画面を例に説明します。

操作手順

1. ［システム環境設定］の［プリントとファクス］アイコンをクリックします（Mac OS X）。または、アップルメニューから［セレクタ］を選択します（Mac OS Classic）。

2. ［デフォルトのプリンタ］でPrint Serverを選択します（Mac OS X）。または、［AdobePS］を選択し、［AppleTalk ゾーン］を選択して、［PostScript プリンタの選択］で Print Server を選択します（Mac OS Classic）。

Print Serverのコンピューター名やAppleTalkゾーン名がわからない場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

Mac OS X で［デフォルトのプリンタ］に表示されるプリンター名は、接続方法により異なります。AppleTalkを使用する場合は、［FX DocuPrint C5000 d PSPX60 PS H2 v3019.101］と表示され、IP を使用する場合は、プリンターの作成時に設定した名前が表示されます。

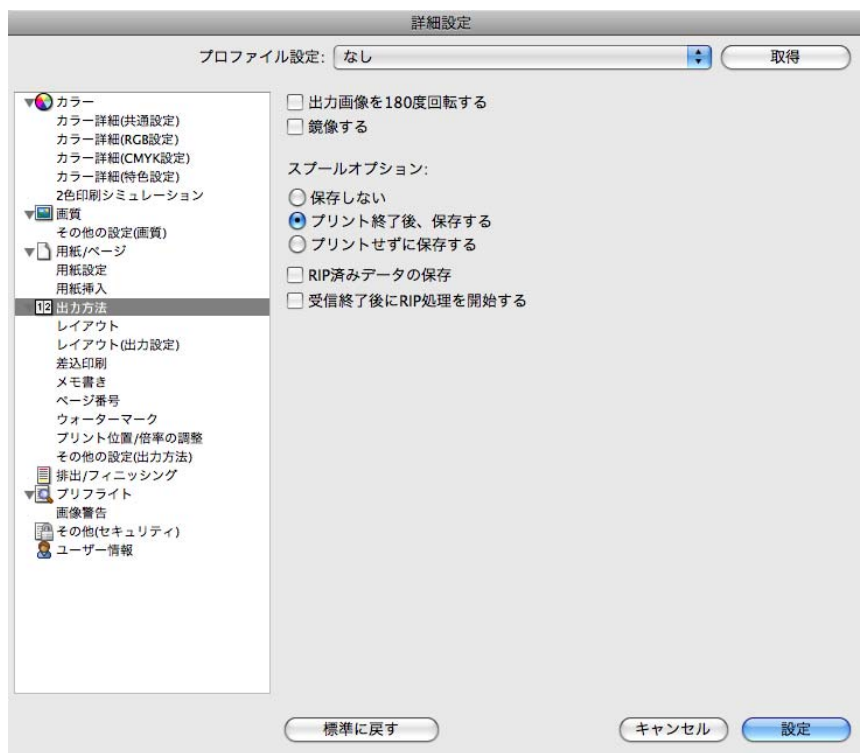
3. プリンターを選択したら、［プリントとファクス］（Mac OS X）、または［セレクタ］（Mac OS Classic）を閉じます。

4. アプリケーションの［ファイル］メニューから、［プリント］を選択します。

5. ［プリンタ］にPrint Serverのプリンタ名が選択されていることを確認し、設定項目のメニューから、［Print Server N01］を選択します。

補足　アプリケーションによって、画面の表示が異なることがあります。

6. ［詳細設定の表示］（Mac OS X）、または［詳細設定］（Mac OS Classic）をクリックします。

7. ［出力方法］（Mac OS X）、または［出力］タブ（Mac OS Classic）を選択し、［スプールオプション］＞［プリント終了後、保存する］、または［プリントせずに保存する］を選択します。

補足　OSのバージョンやアプリケーションによっては、［スプールオプション］を設定できません。

8. 必要に応じて、その他の各項目を設定します。

Print Serverは、AdobePSプリンタードライバーのレイアウト機能（両面印刷）には対応していません。

プリント設定項目の詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」を参照してください。

9. ［設定］をクリックし、プリントのダイアログボックスで、［プリント］をクリックします。

ジョブがPrint Serverに送信されます。

10. 必要に応じて、WebManagerを起動してジョブを確認します。

WebManager を使うと、ジョブを表示させたり、一時的にプリントを停止したり、プリント待ちのリストからジョブを削除したりできます。

WebManagerの使い方については、『ユーザーズガイド運用編』の「5.2 WebManagerについて」を参照してください。

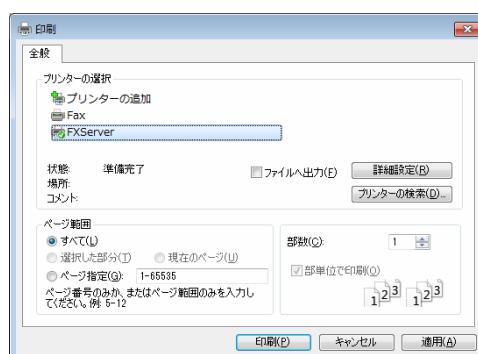
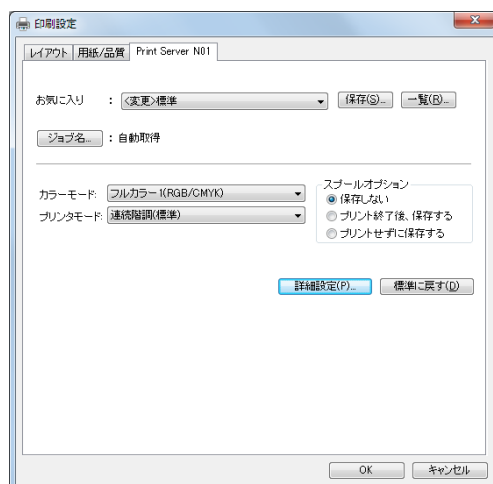
続いて、「3.2 ServerManagerで編集、プリントする」（P.89）に進みます。

3.1.2　Windowsクライアント

ここでは、Windows 7のワードパッドを例に説明します。

操作手順

1. アプリケーションの［ファイル］→［印刷］を選択します。

2. ［プリンターの選択］でPrint Serverを選択し、［詳細設定］をクリックします。

3. ［Print Server N01］タブ>［スプールオプション］の［プリント終了後、保存する］、または［プリントせずに保存する］を選択します。

補足　表示されるプリント設定項目は、プリンタードライバーによってタブ形式とそうでないものがありますが、機能は同じです。

4. 必要に応じて、その他の各項目を設定します。

参照　プリント設定項目の詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」を参照してください。

5. ［OK］をクリックし、［印刷］ダイアログボックスで、［印刷］をクリックします。

ジョブがPrint Serverに送信されます。

6. 必要に応じて、WebManagerを起動してジョブを確認します。

WebManager を使うと、ジョブを表示させたり、一時的にプリントを停止したり、ジョブを削除したりできます。

参照　WebManagerの使い方については、『ユーザーズガイド運用編』の「5.2 WebManagerについて」を参照してください。

続いて、「3.2 ServerManagerで編集、プリントする」（P.89）に進みます。

3.2　ServerManagerで編集、プリントする

ここでは、Print Serverで受信したジョブをServerManagerを使って編集し、プリントを指示する手順について説明します。

各機能の詳細は、『ユーザーズガイド運用編』の「3.1 ServerManagerについて」を参照してください。

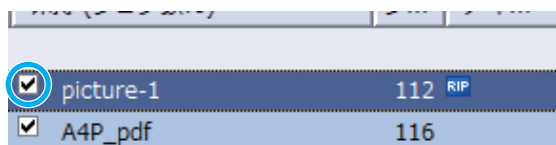
3.2.1　ServerManagerのウィンドウ

上部にはPrint Serverやプリンターの状態を示すステータスメッセージが表示されます。
Print Serverには、「ボックス」があり、クリックするとそれぞれの「ジョブリスト」表示に切り替わります。
［プリント］ボックスには、処理中、保持、およびエラーの3つがあります。

①プレビューウィンドウ
ジョブリストで選択したジョブのプレビュー画像が表示されます。

②マシン消耗品状態ウィンドウ
プリンターの消耗品の状態とPrint ServerのHDD使用量が表示されます。

③ネットワーク状態ウィンドウ
利用できるネットワークの現在の状態が表示されます。

受信したジョブの確認

プリントオプションの［出力方法］＞［スプールオプション］で、Print Serverに保存するように設定したジョブは、ジョブリストの保持リストに表示され、先頭にチェックマークが付いています。このチェックマークの有無で、ジョブを保存するかどうかを変更できます。（処理中のジョブも操作できます）

チェックマークが外れているジョブは、プリントなどの処理が終了すると、ジョブリストから削除されます。

通常、ウィンドウ内の文字の色は黒で表示されますが、ジョブの状態によって赤やマゼンタなどの色で表示されることがあります。
ジョブに色文字が使われていたり、ジョブリストのエラーリストに表示されていたりするときは、『ユーザーズガイド運用編』の「6.3 エラージョブメッセージについて」を参照し、対処してください。

ログインモードの表示

メインウィンドウ左上には、Print Serverのコンピューター名とServerManagerにログインしたモードが表示されます。

システムの運用に影響するようなServerManagerの設定や、セキュリティプリントの設定がされているジョブの操作などを制限なく行うには、管理者モードでログインしている必要があります。

ログインモード、およびログインの操作方法については、「ServerManager起動時の自動ログイン」（P.51）を参照してください。

バージョン情報の表示

メインウィンドウ左上には、Print Serverのバージョン名が表示されます。

カラム幅の変更

各ジョブリストのヘッダー部分の右側をドラッグ＆ドロップすると、各カラムの幅を変更できます。

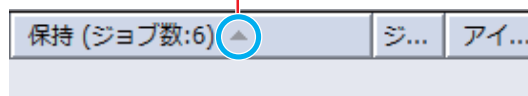
カラムの移動

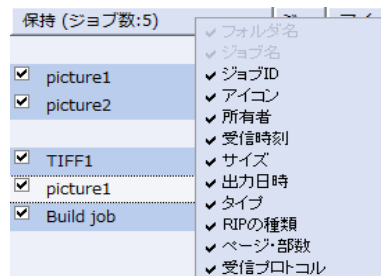
■「受信時刻」を「所有者」の前に移動する場合

移動中は、項目が半透明で表示されます

各ジョブリストの移動させる項目のカラムを選択し、移動する場所までドラッグ＆ドロップします。

ジョブリストのソート

このカラム上で 1 回クリックすると、▲マークが表示されます

保持リストとエラーリストでは、選択した項目をキーにして、ジョブを昇順、または降順にソートして表示できます。
ソートする項目のカラム上でクリックすると、▲マークが表示され、昇順にソートされます。
昇順（▲）と降順（▼）は、1回クリックするごとに、切り替わります。
デフォルトでは、「受信時刻」で昇順にソートされています。

リスト表示項目の選択

カラムを右クリックして表示されるメニューから項目の表示/非表示が選択できます。

項目を非表示から表示に変更すると、カラムの最右端に追加されます。

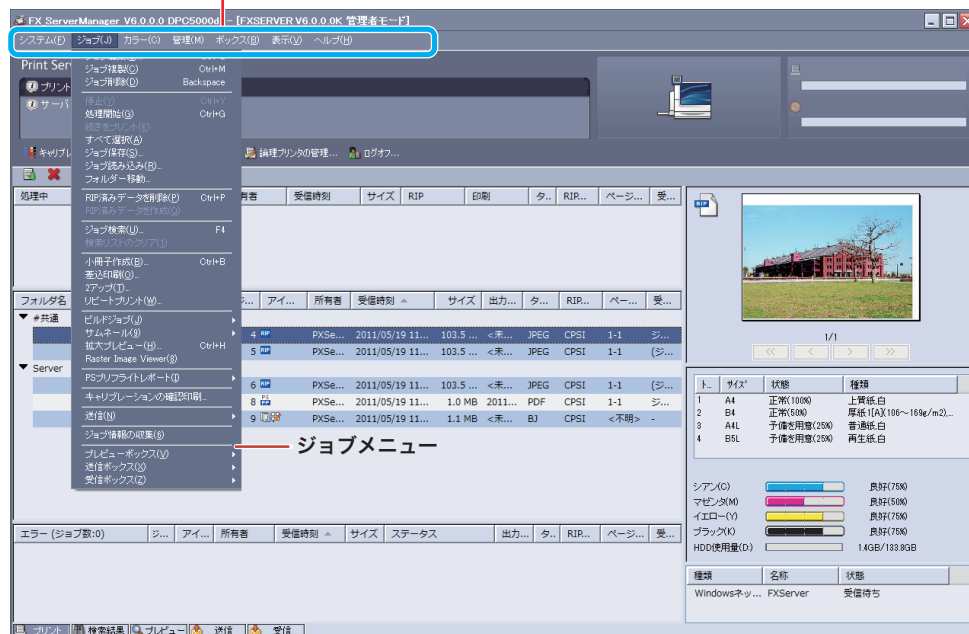
3.2.2　ジョブの編集

ジョブリストにあるジョブを選択して、以下の方法で［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示できます。

・ダブルクリックする

・ServerManagerの［ジョブ］→［ジョブ編集］を選択する

・右クリックして表示されるポップアップメニューで［ジョブ編集］を選択する

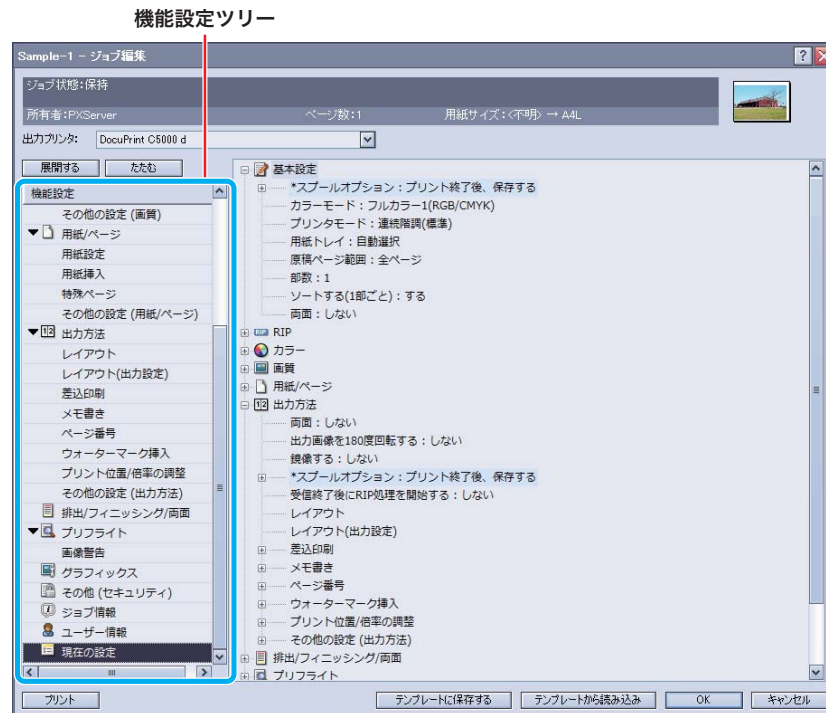
ServerManager のメニュー

・処理中ジョブリスト内では、ドラッグ＆ドロップをして処理の順番を変更することはできません。

・ジョブに対する操作は、選択されたすべてのジョブが対象になります。ただし、選択したジョブやジョブの数によって、選択できるメニューの項目は異なります。

・複数のジョブを選択する場合は、〈Ctrl〉キー、または〈Shift〉キーを使用します。

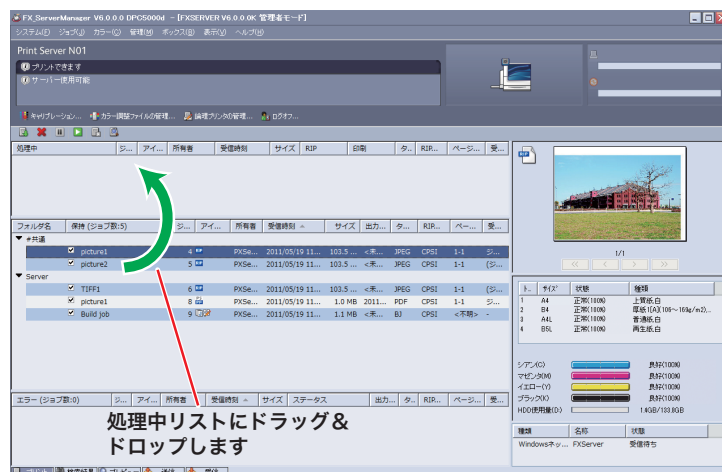
・一般ユーザーでログインしている場合、セキュリティプリントが設定されているジョブを操作するためには、パスワードの入力が必要です。

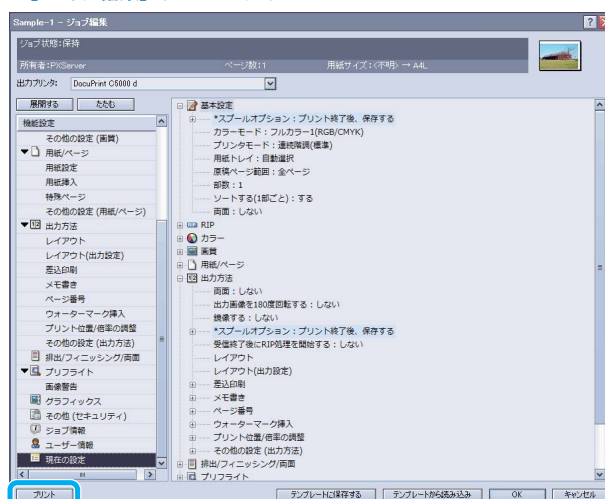
◆機能設定ツリー

クリックすると、右側に設定項目が表示されます。
［現在の設定］では、先頭に「*」が表示され、デフォルトから変更された項目を確認することができます。

処理中のジョブは、編集できません。

3.2.3　プリントの指示

ジョブの編集やプリフライトチェックが完了したら、プリントを指示します。
プリントするときは、ジョブをドラッグ＆ドロップして処理中リストに移動します。

■ジョブリストから

［ジョブ編集］ダイアログボックスが表示されている場合は、［プリント］をクリックします。

■［ジョブ編集］ダイアログボックスから

ほかにも、プリントの指示には以下の方法があります。
・［ジョブ］→［処理開始］を選択する。
・ServerManagerの機能ボタン（▶）をクリックする。
・右クリックして表示されるポップアップメニューで［処理開始］を選択する。

3.2.4　エラーシート

プリント処理中にPostScriptエラーが発生すると、エラーシートがプリントされます。
エラーシートには、エラーの内容が記述されています。

```
%%{Error:undefined spot color,(DIC 2349p)]%%
%%[Flushing:rest of job(to end-of-file)will be ingnored]%%
```

シートを参照して、ジョブのファイルの設定を確認してください。

エラーシートは、エラーが発生したときにプリントするように、デフォルトで設定されています。エラーシートがプリントされないように設定する場合は、「プリントジョブの設定」(P.40)を参照してください。

Index

記号・英数

あ

い

お

き

さ

し

す

そ

た

と

は

ふ

ほ

め

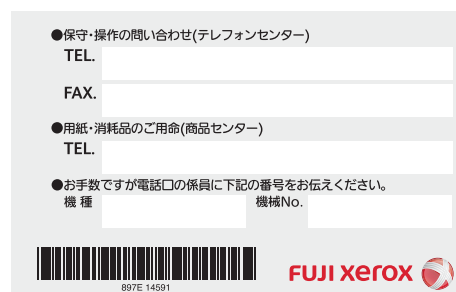
ゆ

ら

ろ

商品のお問い合わせ先について

●この商品の保守、操作、修理(内容、期間、費用)のお問い合わせ、および消耗品をご購入される場合は、商品に貼られている保守サポートの問い合わせ先カードの裏面に記載のあるテレフォンセンター、または商品センターにお問い合わせください。

表 面

裏 面

お問い合わせ先が不明の場合は、富士ゼロックス プリンターサポートデスクにお問い合わせください。

フリーダイヤル:0120-66-2209（フジゼロックス）　FAX:0120-14-1046

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時～ 17 時 30 分
フリーダイヤルは、携帯電話・PHS および海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

本機を廃却する場合は、お買い上げいただいた富士ゼロックス、各販売会社の担当営業にお問い合わせいただき、お申し込みください。
担当営業が不明な場合には、プリンター回収センターで受付します。
TEL：0120-88-8641　　FAX：0120-22-6993
受付時間：9 時～ 12 時、13 時～ 17 時

弊社へのお問い合わせの際には、機種名と機械番号を確認させていただきます。
保守サポートの問い合わせ先カードの裏面の「機種」「機械 No.」、もしくは商品の背面、または側面の銀色のシールに記載されている「商品名」「商品コード」「SER#」を事前にご確認ください。

●富士ゼロックスに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル：0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時～ 12 時、13 時～ 17 時
フリーダイヤルは、携帯電話・PHS および海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

ホームページアドレス：http://www.fujixerox.co.jp
商品全般に関する情報、最新ソフトウエアなどを提供しています。

Print Server N01ユーザーズガイド導入編

著作者 ― 富士ゼロックス株式会社　　発行年月 ― 2011年 9月　　第2版
発行者 ― 富士ゼロックス株式会社

（管理番号：ME5442J1-1）